

社 会

発行者			教科書の記号・番号	判型 総ページ数	検定済年
番号	名称	略称			
2	東京書籍	東 書◆	社会 305 405 505・506 605・606	A B 852	令和5年
17	教育出版	教 出◆	社会 307 407 507 607	A B 976	
116	日本文教出版	日 文◆	社会 308 408 508 608	A B 986	

※「発行者 略称」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示しています。

社会

1 調査の対象となる教科書の冊数と発行者

冊数	発行者
14冊	東書、教出、日文

2 学習指導要領における教科・学年の目標等

【社会科の目標】

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

【学年の目標】

【第3学年】

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子、地域の様子の移り変わりについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。
- (3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

【第4学年】

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 自分たちの都道府県の地理環境の特色、地域の人々の健康と生活環境を支える働きや自然災害から地域の安全を守るための諸活動、地域の伝統と文化や地域の発展に尽くした先人の働きなどについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。
- (3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

【第5学年】

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土の地理環境の特色や産業の現状、社会の情報化と産業の関わりについて、国民生活との関連を踏まえて理解するとともに、地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の国土に対する愛情、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

〔第6学年〕

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 我が国の政治の考え方と仕組みや働き、国家及び社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産、我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割について理解するとともに、地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の歴史や伝統を大切に国を愛する心情、我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。

【参考：小学校学習指導要領解説 社会編「第1章 総説 2 社会科改訂の趣旨及び要点」から（抜粋）】

(i) 社会科，地理歴史科，公民科の改善の基本方針

- 社会科，地理歴史科，公民科では，社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動を充実し，知識や思考力等を基盤として社会の在り方や人間としての生き方について選択・判断する力，自国の動向とグローバルな動向を横断的・相互的に捉えて現代的な諸課題を歴史的に考察する力，持続可能な社会づくりの観点から地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度など，国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育んでいくことが求められる。

- 社会科，地理歴史科，公民科における教育目標は，従前の目標の趣旨を勘案して「公民としての資質・能力」を育成することを目指す，その資質・能力の具体的な内容を「知識・技能」，「思考力・判断力・表現力等」，「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱で示した。

その際，高等学校地理歴史科，公民科では，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を，小・中学校社会科ではその基礎をそれぞれ育成することが必要である。

- 資質・能力の具体的な内容としては，「知識・技能」については，社会的事象等に関する理解などを図るための知識と社会的事象等について調べまとめる技能として，「思考力・判断力・表現力等」については，社会的事象等の意味や意義，特色や相互の関連を考察する力，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて構想する力や，考察したことや構想したことを説明する力，それらを基に議論する力として，また，「学びに向かう力・人間性等」については，主体的に学習に取り組む態度と，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情などとして，それぞれ校種の段階や分野・科目ごとの内容に応じて整理した。

- 「社会的な見方・考え方」は，課題を追究したり解決したりする活動において，社会的事象等の意味や意義，特色や相互の関連を考察したり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて構想したりする際の視点や方法であると考えられる。そこで，小学校社会科においては，「社会的事象を，位置や空間的な広がり，時期や時間の経過，事象や人々の相互関係などに着目して捉え，比較・分類したり総合したり，地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること」を「社会的事象の見方・考え方」として整理し，中学校社会科，高等学校地理歴史科，公民科においても，校種の段階や分野・科目の特質を踏まえた「見方・考え方」をそれぞれ整理した。その上で，「社会的な見方・考え方」をそれらの総称とした。

- こうした「社会的な見方・考え方」は，社会科，地理歴史科，公民科としての本質的な学びを促し，深い学びを実現するための思考力，判断力の育成はもとより，生きて働く知識の習得に不可欠であること，主体的に学習に取り組む態度や学習を通して涵養される自覚や愛情等にも作用することなどを踏まえると，資質・能力全体に関わるものであると考えられる。

(ii) 社会科，地理歴史科，公民科の具体的な改善事項

- 三つの柱に沿った資質・能力を育成するためには，課題を追究したり解決したりする活動の充実が求められる。社会科においては従前，小学校で問題解決的な学習の充実，中学校で適切な課題を設けて行う学習の充実が求められており，それらの趣旨を踏襲する。
- そうした学習活動を充実させるための学習過程の例としては，大きくは課題把握，課題追究，課題解決の三つが考えられる。また，それらを構成する活動の例としては，動機付けや方向付け，情報収集や考察・構想，まとめや振り返りなどの活動が考えられる。
- 社会科，地理歴史科，公民科の内容については，三つの柱に沿った資質・能力や学習過程の在り方を踏まえて，それらの趣旨を実現するため，次の二点から教育内容を整理して示すことが求められる。
視点の第一は，社会科における内容の枠組みや対象に関わる整理である。小学校社会科では，中学校社会科の分野別の構成とは異なり，社会的事象を総合的に捉える内容として構成されている。そのため教員は，指導している内容が社会科全体においてどのような位置付けにあるか，中学校社会科とどのようにつながるかといったことを意識しづらいという点が課題として指摘されている。そのことを踏まえ，小・中学校社会科の内容を，①地理的環境と人々の生活，②歴史と人々の生活，③現代社会の仕組みや働きと人々の生活という三つの枠組みに位置付ける。また，①，②は空間的な広がりを中心に地域，日本，世界と，③は社会的事象について経済・産業，政治及び国際関係と，対象を区分する。
視点の第二は，「社会的な見方・考え方」に基づいた示し方の改善である。「社会的な見方・考え方」は社会的事象等を見たり考えたりする際の視点や方法であり，時間，空間，相互関係などの視点に着目して事実等に関する知識を習得し，それらを比較，関連付けなどして考察・構想し，特色や意味，理論などの概念等に関する知識を身に付けるために必要となるものである。これらのことを踏まえて，学習指導要領の内容について，例えば「社会的な見方・考え方」と概念等に関する知識との関係などを示していくことが重要である。
- 社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて構想する力を養うためには，現行学習指導要領において充実された伝統・文化等に関する様々な理解を引き続き深めつつ，将来につながる現代的な諸課題を踏まえた教育内容の見直しを図ることが必要である。具体的には，日本と世界の生活・文化の多様性の理解や，地球規模の諸課題や地域的な諸課題の解決について，例えば，我が国の固有の領土について地理的な側面や国際的な関係に着目して考えるなど，時間的・空間的な多様な視点から考察する力を身に付けるなどのグローバル化への対応，持続可能な社会の形成，情報化等による産業構造の変化やその中での起業，防災・安全への対応や周囲が海に囲まれ，多くの島々からなる海洋国家である我が国の国土の様子，主権者教育において重要な役割を担う教科として選挙権年齢の18歳への引き下げに伴い財政や税，社会保障，雇用，労働や金融といった課題への対応にも留意した政治参加，少子高齢化等による地域社会の変化などを踏まえた教育内容の見直しを図ることが必要である。
- 主体的な学びについては，児童生徒が学習課題を把握しその解決への見通しを持つことが必要である。そのためには，単元などを通じた学習過程の中で動機付けや方向付けを重視するとともに，学習内容・活動に応じた振り返りの場面を設定し，児童生徒の表現を促すようにすることなどが重要である。
- 対話的な学びについては，例えば，実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり，実社会の人々の話を聞いたりする活動の一層の充実が期待される。しかしながら，話し合いの指導が十分に行われずグループによる活動が優先し内容が深まらないといった課題が指摘されるところであり，深い学びとの関わりに留意し，その改善を図ることが求められる。
- また，主体的・対話的な学びの過程で，ICTを活用することも効果的である。
- これらのことを踏まえるとともに，深い学びの実現のためには，「社会的な見方・考え方」を用いた考察，構想や，説明，議論等の学習活動が組み込まれた，課題を追究したり解決したりする活動が不可欠である。具体的には，教科・科目及び分野の特質に根ざした追究の視点と，それを生かした課題（問い）の設定，諸資料等を基にした多面的・多角的な考察，社会に見られる課題の解決に向けた広い視野からの構想（選択・判断），論理的な説明，合意形成や社会参画を視野に入れながらの議論などを通し，主として用語・語句などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，主として社会的事象等の特色や意味，理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関する知識を獲得するように学習を設計することが求められる。このような観点から，例えば主権者教育の充実のため，モデル事業等による指導法の改善や単元開発の実施，新しい教材の開発・活用など教育効果の高い指導上の工夫の普及などを図ることも重要である。
- 授業において，新聞や公的機関が発行する資料等を一層活用すること。

- 教育環境の充実のために次のような条件整備が求められる。
 - ・教科の内容に関係する専門家や関係諸機関等と円滑な連携・協働を図り、社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動を充実させること
 - ・博物館や資料館、図書館などの公共施設についても引き続き積極的に活用すること
 - ・教員を対象とした研修の充実努めること

3 教科書の調査研究

(1) 内容

ア 調査研究の総括表（調査結果は「別紙1」）

調査研究事項（調査研究の対象）		対象の根拠（目標等）	数値データの単位
a	① 身近な地域や市区町村の様子について取り上げているページ数	第3学年の目標	ページ
	② ①のうち、市の様子について取り上げているページ数	第3学年の目標	ページ
b	地域に見られる販売の仕事のうち、外国との関わりについて取り上げているページ数	第3学年の目標	ページ
c	① 地域の様子の移り変わりについて取り上げているページ数	第3学年の目標	ページ
	② ①のうち、「人口」を取り上げる際に、少子高齢化、国際化などについて取り上げているページ数	第3学年の目標	ページ
d	自然災害から人々を守る活動のうち、地域の関係機関や人々が行ってきたこれまでの取組や、今後の備えについて取り上げているページ数	第4学年の目標	ページ
e	県内の文化財や年中行事を取り上げている事例数	第4学年の目標	個
f	地域の発展に尽くした先人の人数	第4学年の目標	人
g	県内の特色ある地域のうち、国際交流に取り組んでいる地域を取り上げているページ数	第4学年の目標	ページ
h	① 世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置、我が国の位置と領土を取り上げているページ数	第5学年の目標	ページ
	② ①のうち、我が国の位置と領土を取り上げているページ数	第5学年の目標	ページ
i	大量の情報や情報通信技術を活用して、国民生活を向上させている産業を取り上げているページ数	第5学年の目標	ページ
j	自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを取り上げているページ数	第5学年の目標	ページ
k	我が国の政治の働きのうち、自然災害からの復旧や復興を取り上げているページ数	第6学年の目標	ページ
l	歴史上の事象と関わりの深い人物の人数	第6学年の目標	人
m	国宝、重要文化財、世界文化遺産等、国家・社会の発展を象徴する文化遺産を取り上げている事例数	第6学年の目標	個
n	我が国の歴史上の主な事象における、自然災害からの復興、少子高齢化の問題、環境問題など、国内外に残されている課題等について取り上げているページ数	第6学年の目標	ページ
o	我が国と経済や文化などの面をつなぐりの深い国の人々や生活の様子を取り上げているページ数	第6学年の目標	ページ
p	国際社会において我が国が果たしている役割を取り上げているページ数	第6学年の目標	ページ
q	発展的な内容を取り上げている事例数	小学校学習指導要領第1章総則	個

イ 調査項目の具体的な内容

① 教科書の特徴をより明確にするため、具体的に調査研究する事項

調査研究事項のb、c、d、e、f、g、i、j、k、l、m、n、p及びqと関連して、次の事項について具体的に調査する。（調査結果は「別紙2」）

- b 地域に見られる販売の仕事のうち、関わりのある外国として取り上げている国の国名
 - c 地域の様子の移り変わりについて取り上げている地名
 - d 自然災害から人々を守る活動のうち、地域の関係機関や人々が行ってきたこれまでの取組や、今後の備えについて取り上げているページの扱い
 - e 県内の文化財や年中行事として取り上げている文化財名や年中行事名
 - f 地域の発展に尽くした先人として取り上げている先人名
 - g 国際交流に取り組んでいる地域として取り上げている地名
 - i 大量の情報や情報通信技術を活用して、国民生活を向上させている産業を取り上げている産業名
 - j 自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを取り上げているページの扱い
 - k 我が国の政治の働きのうち、自然災害からの復旧や復興について取り上げているページの扱い
 - l 歴史上の事象と関わりが深い人物として取り上げている人物名
 - m 国宝、重要文化財、世界文化遺産等、国家・社会の発展を象徴する文化遺産として取り上げている文化遺産名
 - n 我が国の歴史上の主な事象における、自然災害からの復興、少子高齢化の問題、環境問題、国内外に残されている課題等について取り上げているページの扱い
 - p 国際社会において我が国が果たしている役割について取り上げているページの扱い
 - q 発展的な内容として取り上げている事例
- <その他>

- *1 我が国の位置と領土の扱い（調査結果は「別紙2-1」）
- *2 国旗・国歌の扱い（調査結果は「別紙2-2」）
- *3 神話や伝承を知り、日本文化や伝統に関心をもたせる資料（調査結果は「別紙2-3」）
- *4 北朝鮮による拉致問題の扱い（調査結果は「別紙2-4」）
- *5 防災や自然災害の扱い（調査結果は「別紙2-5」「別紙2 d、j、k、n」）
- *6 一次エネルギーや再生可能エネルギーの扱い（調査結果は「別紙2-6」）
- *7 持続可能な社会づくりの扱い（調査結果は「別紙2-7」）
- *8 障害者理解に関する扱い（調査結果は「別紙2-8」）
- *9 オリンピック・パラリンピックの扱い（調査結果は「別紙2-9」）
- *10 固定的な性別役割分担意識に関する扱い（調査結果は「別紙2-10」）

② 調査対象事項を設定した理由等

- ・ 第3学年においては、身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の産業と消費生活の様子や地域の様子の移り変わりなどについて、人々の生活との関連を踏まえて理解し、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養うことなどが目標で示されている。具体的には、地域に見られる生産や販売の仕事、市の様子の移り変わりなどの内容を取り上げ、自分たちの市を中心とした地域の社会生活を総合的に理解できるようにすることである。

これらのことから、地域に見られる販売の仕事のうち、関わりのある外国として取り上げられていた国名、地域の様子の移り変わりを取り上げている地名について取り上げ、その内容を調査する。
(b、c)

- ・ 第4学年においては、自然災害から地域の安全を守るための諸活動、地域の伝統と文化や地域の発展に尽くした先人の働き、自分たちの都道府県の地理的環境の特色などについて、人々の生活との関連を踏まえて理解し、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養うことなどが目標で示されている。具体的には、自然災害から人々を守る活動、県内の伝統や文化、先人の働き、県内の特色ある地域の様子などの内容を取り上げ、自分たちの県を中心とした地域の社会生活を総合的に理解できるようにすることである。

これらのことから、自然災害から人々を守る活動のうち、地域の関係機関や人々が行ってきたこれまでの取組や、今後の備え、県内の文化財や年中行事、地域の発展に尽くした先人、県内の特色ある地域のうち、国際交流に取り組んでいる地域について取り上げ、その内容について調査する。

(d、e、f、g)

- ・ 第5学年においては、我が国の国土の地理的環境の特色、社会の情報化と産業の関わりについて理解し、我が国の国土に対する愛情、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養うことなどが目標で示されている。具体的には、我が国の国土の様子と国民生活、我が国の産業と情報との関わり、我が国の国土の自然環境と国民生活の関わりなどの内容を取り上げ、我が国の国土と産業の様子や特色を総合的に理解できるようにすることである。

これらのことから、大量の情報通信技術を活用して、国民生活を向上させている産業、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが進めている様々な対策や事業について取り上げ、その内容について調査する。(i、j)

- ・ 第6学年においては、我が国の政治の考え方と仕組みや働き、歴史上の事象と関わり深い人物や優れた文化遺産、我が国と関係の深い国の生活、グローバル化する国際社会における我が国の役割について理解し、我が国の歴史や伝統を大切に国を愛する心情、我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養うことなどが目標で示されている。具体的には、我が国の政治の働き、我が国の歴史上の主な事象、グローバル化する世界と日本の役割などの内容を取り上げ、我が国の政治の働きや歴史、我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割について理解できるようにすることである。

これらのことから、我が国の政治の働きのうち、自然災害からの復旧や復興、国家・社会の発展に大きな働きをした先人、国家・社会の発展を象徴する文化遺産、我が国の歴史上の主な事象における、自然災害からの復興、少子高齢化の問題、環境問題など、国内外に残されている課題等、国際社会において我が国が果たしている役割について取り上げ、その内容について調査する。(k、l、m、n、p)

- ・ 発展的な内容については、小学校学習指導要領第1章総則「第2 教育課程の編成 3 教育課程の編成における共通事項 (1) 内容等の取扱い イ」において、「学校において特に必要がある場合には、第2章以下に示していない内容を加えて指導することができる。」と示されている。また、「(3) 指導計画の作成等に当たっての配慮事項 イ」では、「各教科等及び各学年相互間の関連を図り、系統的、発展的な指導ができるようにすること。」と示されている。

これらのことから、発展的な内容の扱いの有無、取り上げている内容の具体的な学習の内容について調査する。(q)

<その他>

- ・ 我が国の位置と領土の扱いについては、小学校学習指導要領に基づき、正しく理解できるようにするため、その扱いについて調査する。(＊1)
- ・ 国旗・国歌については、学習指導要領に基づき、国旗・国歌に対する正しい認識をもたせ、それらを尊重する態度を育てることが大切であることから、その扱いについて調査する。(＊2)
- ・ 学習指導要領では、第6学年の歴史学習で、大和朝廷による統一の様子などを通して、むらからくへと変化したことを学習するに当たって、神話・伝承を手掛かりに、国の形成に関する考え方などに関心をもたせることなどを求めているため、神話・伝承の扱いについて調査する。(＊3)
- ・ 東京都教育委員会は、教育目標の基本方針1として「人権尊重の精神と社会貢献の精神の育成」を掲げ人権教育を推進してきた観点から、児童が人権課題を正しく理解できるようにするため、北朝鮮による拉致問題の扱いについて調査する。(＊4)
- ・ 東京都では、自然災害における被害を最小化し、首都機能の迅速な復旧を図る総合的なリスクマネジメント方策の確立が喫緊の課題であり、防災教育の普及等により地域の防災力の向上が重要であることから、防災や、自然災害のあつかいについて調査する(＊5)
- ・ 学習指導要領に基づき、環境にかかる諸問題を考察させることを通して、これらの問題を正しく理解できるようにするため、一次エネルギーや再生可能エネルギーの扱いについて調査する。(＊6)
- ・ 児童には、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される。学習指導要領に基づき、正しい理解ができるように、持続可能な社会づくりの扱いについて、調査する。(＊7)
- ・ 東京都教育委員会の基本方針1である「人権尊重の精神」と「社会貢献の精神」の育成を踏まえ、障害のある人も障害のない人もともに尊重し合いながら活躍できる社会、共生社会の実現を目指す上で、障害のある幼児・児童・生徒に対する理解を深められるようにするため、その扱いについて調査する。(＊8)
- ・ 東京都教育委員会の基本方針2・3に基づき、文化・スポーツに親しみ、国際社会に貢献できる日本人を育成するという観点から、オリンピック・パラリンピックの扱いについて調査する。(＊9)

- ・ 東京都教育委員会の基本方針1及び東京都の男女平等参画推進の施策を踏まえ、固定的な性別役割分担意識の解消や、「無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）」に気付いて言動等を見直していくなど、男女の平等を重んずる態度を養うことができるよう、その扱いについて調査する。
（*10）

③ 調査研究の方法

- b 地域に見られる販売の仕事のうち、関わりのある外国として取り上げている国の国名について整理する。
- c 地域の様子の移り変わりについて取り上げている地名について整理する。
- d 自然災害から人々を守る活動のうち、地域の関係機関や人々が行ってきたこれまでの取組や、今後の備えについて取り上げているページの扱いについて整理する。
- e 県内に古くから伝わる文化財名及び年中行事名について整理する。
- f 地域の発展に尽くした先人として取り上げている先人名について整理する。
- g 国際交流に取り組んでいる地域として取り上げている地名について整理する。
- i 大量の情報通信技術を活用して、国民生活を向上させている産業を取り上げている産業名について整理する。
- j 自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを取り上げているページの扱いについて整理する。
- k 我が国の政治の働きのうち、自然災害からの復旧や復興を取り上げているページの扱いについて整理する。
- l 歴史上の事象と関わりの深い人物名について整理する。
- m 国宝、重要文化財、世界文化遺産等、国家・社会の発展を象徴する文化遺産名について整理する。
- n 我が国の歴史上の主な事象における、自然災害からの復興、少子高齢化の問題、環境問題など、国内外に残されている課題等について取り上げているページの扱いについて整理する。
- p 国際社会において日本の関係機関の役割等を取り上げているページの扱いについて整理する。
- q 発展的な内容については、義務教育諸学校教科用図書検定基準第2章2(16)に基づき、発展的な学習内容以外のものと区別して、発展的な学習内容であることが明示されているものを整理する。

<調査の結果、qについては、記載の無いことを確認した。>

<その他>

- *1 我が国の位置と領土について取り上げている記述の概要を調査する。
- *2 国旗・国歌について取り上げている記述を調査する。
- *3 神話や伝承について取り上げている記述の概要を調査する。
- *4 北朝鮮による拉致問題について取り上げている記述の概要を調査する。
- *5 防災や、自然災害時における関係機関の役割等について取り上げている記述の概要について整理する。
- *6 一次エネルギーや再生可能エネルギーについて取り上げている項目を調査する。
- *7 持続可能な社会づくりについて取り上げられている項目を調査する。
- *8 障害者理解について取り上げられている記述を調査する。
- *9 オリンピック・パラリンピックについて取り上げている項目及び記述の概要を調査する。
- *10 固定的な性別役割分担意識に関する記述を調査する。

(2) 構成上の工夫（調査結果は「別紙3」）

以下の観点について、箇条書きで記載する。

- ア 冊子の構成
- イ 学習過程
- ウ 学習活動
- エ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫
- オ ユニバーサルデザインの視点
- カ デジタルコンテンツの扱い

「別紙1」【(1)内容ア 調査研究の総括表】(小学校 社会)

項目	第3学年			第4学年			第5学年			第6学年			全学年								
	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	q				
発行者	① 身近な地域や市区町村の様子について取り上げているページの数	② ①のうち、市の様子について取り上げているページの数	① 地域の様子について取り上げているページの数	② ①のうち、高齢化、国際化などについて取り上げているページの数	① 自然災害から人々を守る活動の取組や、関係機関や人々の備えについて取り上げているページの数	② 事例内の文化財や年中行事を取り上げている人数	① 県内のある地域を取り上げているページの数	① 世界の主な大陸と海洋、主な国名と位置、我が国の位置と領土を取り上げているページの数	② ①のうち、我が国の位置と領土を取り上げているページの数	① 大量の情報を向上させている産業を取り上げて、国民生活を向上させているページの数	② 自然災害から国土を保全し、国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを取り上げているページの数	① 我が国の復興や復興の動きのうち、自然災害からの復興や復興を取り上げているページの数	① 歴史上の事象と関わり深い人物の人数	① 国宝、重要文化財、世界文化遺産等、国上っている事例の数	① 国内問題から国際問題、少子高齢化、環境問題、領土問題、国際化に関する課題等について取り上げているページの数	① 我が国と他の国々や生活の様子を取り上げているページの数	① 国際社会において我が国が果たしている役割を取り上げているページの数	① 発展的な内容を取り上げている事例の数			
	東書	34	20	3	22	10	22	34	7	10	10	4	16	14	11	103	48	6	36	12	0
	教出	38	24	3	32	11.5	34	45	6	12	12	6	20	14	9	109	37	8	34	18	0
	日文	36	22	2	30	11	40	55	10	11	12	4	22	15	6	116	36	7	28	14	0
平均値	36.0	22.0	2.7	28.0	10.8	32.0	44.7	7.7	11.0	11.3	4.7	19.3	14.3	8.7	109.3	40.3	7.0	32.7	14.7	0.0	

※ ページ図や表も含んだ記述量がページの半分未満の場合を0.5ページ、半分以上の場合を1ページとして、ページ数を数えた。

※ 表中の平均値は、項目ごとの各発行者の平均を小数第二位で四捨五入した値を示している。

※ a～cは第3学年、d～gは第4学年、h～jは第5学年、k～pは第6学年、qは第3～6学年を通じて取り扱うものについて数えた。

※ a②は、身近な地域や市区町村の様子について学習する単元から、市の様子について取り上げているページ数を数えた。

※ bは、地域に見られる販売の仕事について学習する単元から、外国との関わりについて取り上げているページ数を数えた。

※ c②は、地域の様子について学習する単元から、「人口」を取り上げる際に、少子高齢化、国際化などについて取り上げているページ数を数えた。

※ dは、自然災害から人々を守る活動のうち、地域の関係機関や人々が行ってきたこれまでの取組や、今後の備えについて取り上げているページ数を数えた。

※ eは、県内の伝統や文化について学習する単元から、具体的な名前が取り上げられている文化財及び年中行事の数を数えた。

※ fは、県内の先人の働きについて学習する単元から、地域の発展に尽くした先人として取り上げられている人物の数を数えた。

※ gは、都道府県における特色のある地域のうち、国際交流に取組んでいる地域、国際化のページ数を数えた。

※ h①は、第5学年の学習において、世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置、我が国の位置と領土を取り上げているページ数を数えた。

※ iは、大量の情報通信技術を活用して、国民生活を向上させている産業を取り上げているページ数を数えた。

※ jは、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを取り上げているページ数を数えた。

※ kは、我が国の政治の動きを学習する単元から、災害復旧の取り組みを取り上げているページ数を数えた。

※ lは、我が国の歴史を学習する単元から、歴史上の事象と関わり深い人物の数を数えた。

※ mは、我が国の歴史を学習する単元から、重要文化財、世界文化遺産、ユネスコ無形文化遺産、日本遺産などと記述した事例の数を数えた。

※ nは、我が国の歴史を学習する単元から、自然災害からの復興、少子高齢化の問題、環境問題、日本人拉致問題、領土問題など、国内外に残されている課題等について取り上げているページ数を数えた。

※ oは、我が国と経済や文化などの面をつなぐ深い国の人々の生活の様子を学習する単元のページ数を数えた。

※ pは、我が国と経済や文化などの面をつなぐ深い国の人々の生活の様子を学習する単元から、国際社会において我が国が果たしている役割を取り上げているページ数を数えた。

※ qは、発展的な学習内容であることを、目次等において示してある事例の数を数えた。

「別紙2」【 (1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 】 (小学校 社会)

<第3学年> b 地域に見られる販売の仕事のうち、関わりのある外国として取り上げられている国の国名

発行者	外国の国名
東書	①アメリカ ②ニュージーランド ③メキシコ ④中国
教出	①イタリア ②モーリタリア ③中国 ④オーストラリア ⑤ブラジル ⑥アメリカ
日文	①フィリピン ②南アフリカ共和国 ③タイ ④アメリカ合衆国 ⑤エクアドル ⑥ブラジル ⑦ニュージーランド ⑧チリ

<第3学年> c 地域の様子の移り変わりについて取り上げている事例地名

発行者	地域の様子の移り変わりについて取り上げている事例地名
東書	①兵庫県明石市 ②東京都足立区
教出	①神奈川県横浜市 ②岐阜県岐阜市 ③大分県大分市 ④広島県福山市
日文	①埼玉県川越市 ②三重県津市

「別紙2」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会)

<第4学年> e 地域の人々が受け継いできた文化財名及び古くから伝わる年中行事名

発行者	取り上げている文化財名・年中行事名
東書	①潤橋(熊本県) ②ハツ鹿おどり(愛媛県) ③熊本城(熊本県) ④阿波おどり(徳島県) ⑤天橋立(京都府) ⑥白石城(宮城県) ⑦兼六園を流れる辰巳用水(石川県) ⑧西予市宇和町の開明学校(愛媛県) ⑨西予市明浜町の牛おに(愛媛県) ⑩松山城(愛媛県) ⑪今治市野間神社のつぎじ(愛媛県) ⑫道後温泉本館(愛媛県) ⑬宇和島市のハツ鹿おどり(愛媛県) ⑭新居浜太鼓祭り(愛媛県) ⑮宇和島ハイツ鹿おどりの鹿の面(愛媛県) ⑯子ども太鼓台(愛媛県) ⑰新居浜太鼓祭りで行われる船御幸(愛媛県) ⑱伊予万歳(愛媛県) ⑲安積疎水(福島県) ⑲見沼代用水(埼玉県) ⑳京都市学校歴史博物館(京都府) ㉑適塾(大阪府) ㉒水江江城(島根県) ㉓教育資料館(宮城県) ㉔瑞巖寺(本堂内)(宮城県) ㉕東日本大震災後に始められた松島流灯台「海の盆」(宮城県) ㉖水沢県庁記念館(宮城県) ㉗武家屋敷のまちなみ(宮城県) ㉘森舞台(宮城県) ㉙警察資料館(宮城県) ㉚とよま秋祭り(宮城県) ㉛春蘭亭(宮城県) ㉜登米能(宮城県)
教出	①吉野ヶ里歴史公園(佐賀県) ②浅草(東京都) ③唐津くんち(佐賀県) ④岸和田だんじり祭り(大阪府) ⑤よさこいソーラン祭り(北海道) ⑥青森ねぶた祭(青森県) ⑦仙台七夕まつり(宮城県) ⑧秩父夜祭(埼玉県) ⑨姫路城(兵庫県) ⑩金閣(京都府) ⑪首里城の守礼門(沖縄県) ⑫富士山(山梨県・静岡県) ⑬白川郷(岐阜県) ⑭紀伊山地の霊場と参詣道(三重県・奈良県・和歌山県) ⑮三木家住宅(徳島県) ⑯大山寺の力餅(徳島県) ⑰大比古神社の神火大祭(徳島県) ⑱勝瑞獅子舞(徳島県) ⑲佐古配水ポンプ場(徳島県) ⑳鶴林寺三重塔(徳島県) ㉑加茂谷鯉祭り(徳島県) ㉒坂州農村舞台(徳島県) ㉓穴喰祇園祭り(徳島県) ㉔相谷のかずら橋(徳島県) ㉕日和佐八幡神社の秋祭り(徳島県) ㉖阿波人形浄瑠璃(徳島県) ㉗阿波おどり(徳島県) ㉘東京高円寺阿波おどり(東京都) ㉙大銅農村舞台(徳島県) ㉚見沼通船堀(埼玉県) ㉛岩瀬藩遷香館(埼玉県) ㉜萬年寺(埼玉県) ㉝星川弁財天(埼玉県) ㉞田が開かれる前にあったぬまに、竜がいたという言い伝えをもとに、地域の人々が始めた祭り(埼玉県) ㉟岩瀬藩遷香館(埼玉県) ㊱宗像大社辺津宮(福岡県) ㊲民陶むら祭(大分県) ㊳観世音寺の仏像(福岡県) ㊴おにすべの祭り(福岡県) ㊵太宰府政庁跡(福岡県) ㊶曲水の宴(福岡県) ㊷八朝の千頭明(福岡県) ㊸太宰府天満宮(福岡県) ㊹博多どんたく(福岡県) ㊺みあれ祭(福岡県) ㊻嘉穂劇場(福岡県)
日文	①三社祭(東京都) ②さっぽろ雪まつり(北海道) ③青森ねぶた祭(青森県) ④日光東照宮(栃木県) ⑤名古屋城(愛知県) ⑥天神祭(大阪府) ⑦阿波おどり(徳島県) ⑧首里城跡(沖縄県) ⑨岡山城(岡山県) ⑩後楽園(岡山県) ⑪倉敷市の美観地区(岡山県) ⑫ひがし茶屋街(石川県) ⑬五島神楽(長崎県) ⑭朝鮮通信使を記念した祭り(長崎県) ⑮黒島天主堂(長崎県) ⑯那須疏水(栃木県) ⑰大浦天主堂(長崎県) ⑱ペーロン大会(長崎県) ⑲長崎くんち(長崎県) ⑳諏訪神社からおどる三体のみこし(長崎県) ㉑庭見せ(長崎県) ㉒シャギリ(長崎県) ㉓筑後町による龍踊(長崎県) ㉔かさぼこ持ち(長崎県) ㉕明治時代のかさぼこ(長崎県) ㉖長崎ししゅう(長崎県) ㉗くんちで使う衣装(長崎県) ㉘元船町による唐船祭(長崎県) ㉙鍛冶屋町による宝船(長崎県) ㉚今籠町による本踊(長崎県) ㉛鯨の潮吹き(長崎県) ㉜川船(長崎県) ㉝南蛮船(長崎県) ㉞川船・七福神(長崎県) ㉟鯨太鼓(長崎県) ㊱崇福寺(長崎県) ㊲端島(長崎県) ㊳蔵上発電所(京都府) ㊴和歌山城(和歌山県) ㊵宝船・七福神(長崎県) ㊶熊野古道に今も残る野中の一方杉と継桜王子の鳥居(和歌山県) ㊷春林軒(和歌山県) ㊸武蔵府中のくらやみ祭(東京都) ㊹みこし渡御(東京都) ㊺子どもみこし(東京都) ㊻山車のじゅん行(東京都) ㊼太鼓の饗宴(東京都) ㊽備前焼まつり(岡山県) ㊾備前焼風鈴まつり(岡山県) ㊿旧閑谷学校の講堂(岡山県) ①旧閑谷学校の講堂の屋根のかわら(岡山県) ②吉備津神社(岡山県) ③鳴釜神事(岡山県) ④うらじゃ(岡山県) ⑤神楽(宮城県)

<第4学年> f 地域の発展に尽くした先人名

発行者	取り上げている先人名
東書	①布田保之助(熊本県) ②橋本勘五郎(熊本県) ③江頭杉太郎(佐賀県) ④緒方洪庵(大阪府) ⑤高城権八(島根県) ⑥勝部本右衛門栄忠(島根県) ⑦勝部本右衛門景浜(島根県)
教出	①井沢弥惣兵衛(埼玉県) ②小笠原東陽(神奈川県) ③杉浦健造(山梨県) ④杉浦三郎(山梨県) ⑤伊波普猷(沖縄県) ⑥中山久蔵(北海道)
日文	①矢板武(栃木県) ②田中正造(栃木県) ③印南文作(栃木県) ④田辺朝朗(京都府) ⑤二宮金次郎(尊徳)(神奈川県) ⑥南方熊楠(和歌山県) ⑦華岡青洲(和歌山県) ⑧川端龍子(和歌山県) ⑨東井義雄(兵庫県) ⑩荻野吟子(埼玉県)

「別紙2」【 (1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 】 (小学校 社会)

＜第4学年＞ g 国際交流に取り組んでいる事例地名

発行者	国際交流に取り組んでいる事例地名
東書	①宮城県仙台市
教出	①福岡県福岡市 ②福岡県柳川市
日文	①岡山県倉敷市

「別紙2」【(1)内容イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会)
 <第5学年> i 大量の情報通信技術を活用して、国民生活を向上させている産業を取り上げている事例名
 取り上げている事例名

発行者

【情報化社会と産業界の発展】
 【はんな売の仕事】
 【写真】電子マネーとしても使えるICカード<下P66>
 【写真】オンラインでの医療相談<下P66>
 【本文】家族がインターネットを使って買い物をしていました。配達中の商品の位置がスマートフォンでわかりました。<下P66>
 【本文】人工知能が細み込まれ、介護の現場で活やくできるロボットが開発されています。<下P66>
 【写真】人工知能が細み込まれた介護ロボット<下P66>
 【本文】病院に行かず、オンラインで支はらいができるアプリ<下P67>
 【写真】スマートフォンで支はらいができるアプリ<下P67>
 【写真】コンビニエンスストアの様子<下P67>
 【本文】兄がコンビニエンスストアでICカードやスマートフォンの電子マネーで買い物しているのを見ることがあります。<下P67>
 【写真】コンビニエンスストアのレジの様子<下P68>
 【写真】専用のタブレットを使った商品の発注<下P68>
 【説明】POSシステム<下P68>
 【資料】ICカードの利用<下P69>
 【写真】集められた情報をもとに開発された商品<下P69>
 【資料】商品がコンビニエンスストアにとけられるしくみ<下P70>
 【説明】位置情報<下P70>
 【資料】トラックの位置や店の状態がわかる画面(イメージ)<下P71>
 【写真】移動はんな売の様子<下P71>
 【写真】家庭に商品をどけるサービス<下P71>
 【写真】コピー機でできる主なこと<下P72>
 【説明】情報通信技術(ICT)<下P72>
 【写真】たぐりロボット<下P73>
 【写真】銀行のあすけいばらい機<下P73>
 【資料】ゆうとどさんがまとめた関係図<下P74・75>
 【運輸業】
 【郵便業】
 【観光業】
 【本文】下呂温泉では、観光業にかかわる人たちがデータを活用しながら、地域を元気にしています。<下P77>
 【医療産業】
 【福祉産業】
 【本文】お年寄りの自宅のいくつかの場所にセンサーを設置し、お年寄りの生活を分けます。<下P79>

東書

「別紙2」【(1)内容イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会) <第5学年> i 大量の情報通信技術を活用して、国民生活を向上させている産業を取り上げている事例名 取り上げている事例名

発行者

【本業とつながる情報】

- 【はんぶん売】
- 【写真】電子マネーでの支払はらい(2020年ごろのスーパー) <P190>
- 【写真】ICカード <P190>
- 【写真】インターネットショッピング <P190>
- 【説明】情報通信技術(CT) <P190>
- 【資料】電子マネーでの支払はらいの回数の変化 <P191>
- 【資料】インターネットショッピングの売り上げ額の変化 <P191>
- 【本文】リフレを通すことで、わたしたち消費者が買った商品の情報が店に集まり、その情報を後で役立てることができず。 <P191>
- 【資料】店のPOSシステム <P192～193>
- 【説明】POSシステム <P192>
- 【本文】「店のレジでは、商品についているバーコードを機械で読み取り、[いつ、どの商品がいくらで、いくつ売れたか]といった情報をいっしょゆんで記録しています。」 <P192>
- 【コラム】スーパーの店長の野中さんの話 <P193>
- 【資料】チェーン店と本部や物流センターとのつながり <P193>
- 【本文】「全国各地にチェーン店がある会社では、POSシステムを通じて、それぞれの店の売れ行きなどの情報を本部に集めています。また、店から本部への発注にも情報通信技術を使っているので、仕入れの量などの情報も本部に集まります。」 <P193>
- 【コラム】スーパーの店長の野中さんの話 <P193>
- 【資料】ある店の仕入れの変化の例 <P194>
- 【本文】「店での発注作業の変化 <P194>
- 【コラム】チェーン店をもつ会社では、毎日の営業を続けていくなかで集まった大量の情報(データ)をさまざまな方法で分析して、生かそうとしています。」 <P194>
- 【資料】本部の情報システム担当の松原さんの話 <P194>
- 【コラム】本部のマーケティング部の眞村さんの話 <P195>
- 【説明】マーケティング <P195>
- 【本文】「インターネットを通じてはんぶん売は、店をおとすれたことのない人や、速くに住む人も、遠くに住む人も、商品を選び、買ってもらうチャンスを広げます。店を開ける費用をおさえるために、はじめから店をもたず、インターネット上だけで商品をはんぶん売する人たちも増えています。」 <P196>
- 【資料】インターネットで注文できるサービス <P196>
- 【写真】飲食店で広がる宅配サービス <P196>
- 【コラム】本部のマーケティング部の眞村さんの話 <P196>
- 【コラム】情報通信技術を活用した新たな取り組み <P197>
- 【写真】店員がいらい店 <P197>
- 【写真】AIカメラの活用 <P197>
- 【写真】情報をあつかう仕事を学ぶ人々 <P198>
- 【資料】情報サービスに関する仕事につく人の数の変化 <P198>
- 【資料】インターネットで世界中を流れる情報量の増加(1か月当たり) <P198>
- 【写真】個人情報流出を知らせる手紙 <P199>
- 【資料】情報通信技術を利用するなかで不安に感じることの例 <P199>
- 【観光】
- 【写真】さまざまな種類の言語で歴史や見どころをガイドしてくれるサービス <P202>
- 【写真】無料のインターネットを利用できるカフェ <P202>
- 【本文】「日本語がわからない人でも情報を得やすいように、観光客が利用する交通機関や施設では、さまざまな情報通信技術を取り入れられるようになりました。」 <P202>
- 【資料】観光旅行を通して集まり、生かされる情報 <P203>
- 【本文】「情報通信技術が発達してきたことで、観光客が持つデータも大量に集まるようになりました。」 <P203>
- 【コラム】熊本県の観光の企画にたずねる人の話 <P203>
- 【写真】インターネットを通じて観光を楽しむオンラインツアー <P203>
- 【医療】
- 【資料】病院の中をつなぐ情報ネットワーク <P204>
- 【資料】佐賀県の医療情報ネットワークの広がりに <P204>
- 【本文】「病気を治すために、多くの人が通う病院や診療所などの医療施設では、情報ネットワークを利用して、医師や患者の負担を減らすとすると取り組みが増えています。」 <P204>
- 【コラム】佐賀県の総合病院で働く人の話 <P204>
- 【資料】佐賀県内の医療施設どうしのつながり <P205>
- 【資料】佐賀県内の医療情報ネットワークを利用する施設 <P205>
- 【資料】一人で暮らす高齢者の人口の変化 <P205>
- 【資料】高齢者を守る情報通信技術の例 <P205>
- 【本文】「佐賀県では、医療施設の間で、患者の情報をすばやく正確にやりとりして、わたがなく、安心な診察や検査を受けられるようになっています。」「また、一人で暮らす高齢者でも、健康に安心してくらせるように、情報通信技術を生かす事例が増えています。」 <P205>
- 【運輸・流通】
- 【資料】トラックによる宅配便の取りあつかい個数の変化 <P206>
- 【資料】トラックで荷物を運ぶ仕事についている人の数の変化 <P206>
- 【本文】「流通にかかわる人たちは、物流のよい宅配のために、大量の情報(データ)の活用を進めています。」 <P206>
- 【資料】注文から配達までの流れ <P206>
- 【写真】先頭に合わせて、自動で速度を変えて走るトラックの実験 <P206>
- 【写真】商品のたなを自動で運ぶロボット <P206>
- 【コラム】宅配会社の情報技術担当者の話 <P206>
- 【写真】車いすで移動しやすい道を表示してくれる機能 <P207>
- 【写真】AIがカメラで野菜を認識し、自動で収穫するロボットなども開発されています。 <P207>

教出

「別紙2」【(1)内容イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会)
 <第5学年> i 大量の情報通信技術を活用して、国民生活を向上させている産業を取り上げている事例名
 取り上げている事例名

発行者

- 【情報】社会に生きるわたしたち
- 【写真】魚の群れの情報を使う漁業<P214>
- 【写真】トマハワスの巣穴に関する情報を確認する<P214>
- 【写真】ロボットによる車体のようせつ<P214>
- 【生産・販売】
- 【写真】食料品の残りの量をスマートフォンで確認できる冷蔵庫<P214>
- 【コラム】アイスクリームをつくる会社の岩崎さんの話<P215>
- 【コラム】気象情報を提供する会社の中野さんの話<P216>
- 【写真】天気予報の画面<P216>
- 【写真】せんたく指紋の画面<P216>
- 【資料】位置情報わかるSNSの短文投稿サイト(イメージ)<P216>
- 【資料】気象情報などを提供するしくみ<P217>
- 【資料】アイスクリームが店にとどくまで<P218>
- 【資料】アイスクリームをつくる会社でこまっていたこと<P218>
- 【資料】気象情報を提供する会社から送られる予測情報<P219>
- 【コラム】アイスクリームをつくる会社の田崎さんの話<P219>
- 【写真】もなかアイスクリームの生産計画を考えたときの様子<P220>
- 【資料】気温で売れゆきが変わりやすい商品<P220>
- 【写真】放送局での活用例<P222>
- 【写真】ガス会社での活用例<P222>
- 【写真】海上運送での活用例<P222>
- 【観光業】
- 【資料】「京都観光Navij」で発信しているおもな情報<P226>
- 【コラム】京都市役所の人の話<P226>
- 【本文】「京都市では、観光客が特定の観光地に集中しないよう、時期や時間、場所を分散させる情報を発信しています。」<P226>
- 【資料】京都観光快進撃マップ<P227>
- 【コラム】「ふたんの京都」に出巻える「京都朝観光・夜観光」<P227>
- 【医療】
- 【写真】かん者の医療情報を見る医師<P230>
- 【コラム】あかりさんからのメール<P230>
- 【資料】「アザレアネット」のしくみ<P231>
- 【本文】「大きな病院で治療を受けたかん者の情報を、かかりつけの病院の医師がコンピューターを使って見ることが出来ます。大きな病院の医師は、かん者の病名や手術のようす、治療の内容や画像、検査結果の内容や画像、現在飲んでいる薬の種類など多くの医療情報を提供しています。」<P231>
- 【資料】役わりがらから病院などが協力して、かん者を治療するしくみ<P232>
- 【本文】「福岡県の『八女・筑後医療情報ネットワーク』や佐賀県の『佐賀県診療情報地域連携システム』と協力して、おたがいの医療情報を共有できるようにすることで、地域をこえた連携が広がっています。」<P234>

日文

「別紙2」J (1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会)

＜第5学年＞ j 自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを取り上げているページの扱い

発行者	国・地方公共団体の役割	警察・消防・自衛隊の働き	地域・学校の取組
<p>東書</p>	<p>国・地方公共団体の役割</p> <p>「わたしたちの生活と環境」 【写真】地震でたおれた高津道路<下P88> 【写真】津波で打ち上げられた船<下P88> 【写真】大雨による被害<下P89> 【写真】噴火による火のさい流<下P89> 【写真】大雪<下P89> 【写真】阪神・淡路大震災でくずれた鉄道の駅と線路<下P90> 【資料】主な地震の震源の分布<下P90> 【資料】断層で起きる地震<下P90> 【説明】プレート<下P90> 【写真】耐震工事<下P91> 【写真】緊急地震速報<下P91> 【写真】国土交通省の災害対策本部<下P91> 【写真】道路の復旧<下P91> 【説明】緊急地震速報<下P91> 【本文】「学校や県庁などの建物では、耐震工事を行って、地震に備えているんだね。」「緊急地震速報は、地震の大きなゆれが予想される直前に知らせてくれるので、自分の身を守ることができます。」「国の会議では、大きな地震の前がわからないか話し合ったり、地震が起きたときの対応を検討したりしています。」「地震が起きた後も、道路を整備するなど、国や県は協力して対策していたね。」<下P92> 【写真】津波におそわれた仙台空港の様子<下P92> 【写真】津波で打ち上げられた漁船<下P92> 【資料】地震の後に津波が起きるしくみ<下P92> 【資料】東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)の震源と、津波による被害が大きかった地域<下P92> 【写真】津波ひんたワワーの建設<下P93> 【写真】防潮堤の建設<下P93> 【資料】津波災害に強いまちづくり<P93> 【説明】公共事業<下P93> 【本文】「津波が来たときのために、津波ひんたワワーがつくられていて、地域の人たちが訓練しているんだね。」「津波災害が起こりやすい地域では、津波を防ぐ防潮堤がつくられているんだね。」「津波が起きたときに、被害が大きくなりやすいまちまちがつくりか考えられているね。自分たちのまちの様子を知ることには、災害に備えるために大切なことだね。」「国や都道府県も協力して、さまざまな取り組みをしています。このような取り組みを公共事業というんだね。」<下P93> 【写真】平成26年8月豪雨での土砂災害<下P94> 【写真】平成29年7月九州北部豪雨<下P94> 【資料】土砂災害が起きる前ふくれ<下P94> 【写真】なにわ放水路<下P95> 【資料】ハザードマップ<下P95> 【資料】ハザードマップ<下P95> 【コラム】国土交通省の平田さんの話<下P95> 【写真】砂防ダムで止まった土石流<下P95> 【写真】大雨特別警報を伝えるニュース<下P95> 【本文】「川の水や土砂が大量に流れてくるのを防ぐダムがあることがわかりました。」「大雨などで水があふれないうちに、放水路がつくられているんだね。」「警報などが出されると、テレビやインターネットでわかりやすく伝えてくれるから、しっかりと情報を得るといいね。」「ハザードマップは、災害が起きる前の備えができ、災害が起きたときにもひんたワワーの参考になります。」<下P95> 【写真】御嶽山の噴火<下P96> 【資料】さまざまな火山現象<下P96> 【資料】気象庁が常に監視している火山<下P96> 【写真】ひんたワワー<下P96> 【本文】「気象庁は、観測する活火山を指定したり、噴火の前ふくれがあると警報などで都道府県や関係機関に知らせたりしているね。」「火山活動が活発な県には、『火山防災の心構え』を広く広め、少しでも被害を減らすように国や県は努力しているんだね。」「とつげんの噴火でとんでくる火山灰や石などから身を守るために、ひんたワワーがつけられている場所もあるね。」<下P96> 【資料】雪による被害<下P97> 【資料】1年で雪が最も多く積もったときの深さ<下P97> 【写真】大雪による被害<下P97> 【写真】消雪パイプ<下P97> 【写真】なだれを防ぐしくみ<下P97> 【説明】減災<下P97> 【本文】「雪の多い地域では、道路の凍結やなだれの発生を防ぐなどの対策があるね。」「自然災害は避けられないけれど、国や都道府県は被害を減らす取り組みをしていて、それを減災というんだね。」<下P97></p>	<p>警察・消防・自衛隊の働き</p> <p>記載なし</p>	<p>地域・学校の取組</p> <p>「わたしたちの生活と環境」 【本文】「津波が来たときのために、津波ひんたワワーがつくられていて、地域の人たちが訓練しているんだね。」<下P93> 【コラム】村人を津波から救った濱口梧陵<P93></p>

「別紙2」J (1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会)

<第5学年> j 自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを取り上げているページの扱い

発行者	国・地方公共団体の役割	警察・消防・自衛隊の働き	地域・学校の取組
<p>教出</p>	<p>【国土】自然ととりに生きる 【写真】大雪<P210> 【写真】熊本地震<P210> 【写真】熊本地震<P210> 【写真】大雨による土砂くずれ<P210> 【写真】大雪<P210> 【写真】東日本大震災(東北地方・太平洋沖地震・津波)<P210> 【写真】阪神・淡路大震災(兵庫県南部地震)<P210> 【写真】台風や大雨による川のはんらん<P210> 【資料】世界の自然災害の被害額にみる各地域の割合<P211> 【写真】避難所での生活<P211> 【写真】1933(昭和8)年の地震・津波の被害<P212> 【写真】2011(平成23)年の地震・津波の被害<P212> 【資料】国の調査による、地震の予測(2020年時点)<P212> 【資料】三陸海岸のあたりで発生した大津波の被害(1600年より後の主な被害)<P212> 【資料】日本で発生した大きな自然災害<P213> 【写真】避難所のそばの津波避難タワー<P214> 【資料】津波からの避難場所の案内<P214> 【写真】津波タワーや避難ビルなどを設置している市町村が全国各地にあり、また、市町村ごとに被害の想定や避難場所などを知らせる標識やハザードマップをつくり、すばい避難につなげようとしています。<P214> 【コラム】国土交通省の防災担当の人の話<P214> 【写真】津波に強いまちづくりを進める田老地区<P215> 【資料】岩手県宮古市の田老地区<P215> 【資料】住民が住み続けたいと思うまちに<P215> 【資料】自然災害に強いまちづくりの例<P215> 【本文】津波が堤防をこえてきても、住民の命や家を守ることはできるように、土地や施設の大規模な整備を進める地域があります。、「田老地区では防波堤を高くつくり直すだけでなく、住宅地のかさ上げや高台への移転も行っています。このような公共事業は多くの費用がかかるため、国や県も協力して進めています。」<P215> 【コラム】プレートの境界にある日本の国土<P216> 【資料】日本の国土とプレート<P216> 【コラム】大雨が増えている？<P216> 【資料】非常に強い雨(1時間に50mm以上)の発生回数<P216> 【資料】緊急地震速報のしくみ<P217> 【資料】地震のゆれに強いつくりにした学校の数の変化<P217> 【写真】電柱をなくす工事<P217> 【写真】電柱をなくす工事<P217> 【写真】地震のゆれに強くする改修を進める、新幹線の線路の柱<P217> 【写真】首都圏外郭放水路<P218> 【写真】渡島瀬遊水地<P218> 【コラム】2015(平成27)年に完成した砂防ダム<P218> 【コラム】国土交通省の防災担当の人の話<P218> 【写真】草津道路の除雪作業<P219> 【写真】なだれ防止さく<P219> 【写真】溶岩などを安全な方向へ流す導流堤<P219> 【写真】全国の火山を監視する気象庁<P219> 【写真】噴火による被害の様子を伝えるために残された小学校の校舎<P219></p>	<p>警察・消防・自衛隊の働き 【写真】土砂にうまった車から救出する訓練<P218></p>	<p>地域・学校の取組 記載なし</p>

「別紙2」(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会)

＜第5学年＞ j 自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを取り上げているページの扱い

発行者	国・地方公共団体の役割	警察・消防・自衛隊の働き	地域・学校の取組
<p>日 文</p>	<p>【国土の環境を守る】 【写真】東日本大震災での津波の被害の様子<P240> 【写真】鬼怒川の洪水と救助活動の様子<P240> 【資料】東日本大震災での津波の被害が甚かかった地域<P240> 【資料】日本でおきた自然災害<P241> 【写真】地震によっておきた津波<P242> 【写真】火山の噴火<P242> 【写真】地震による被害<P242> 【写真】噴火による被害<P242> 【写真】豪雨による土石流の被害<P243> 【写真】竜巻<P243> 【写真】豪雨による被害<P243> 【写真】草湖による被害<P243> 【写真】大雪による被害<P243> 【資料】おもな地震の発生した場所<P244> 【資料】マグニチュード6.0以上の地震が発生した回数<P244> 【資料】地震や津波がおこるしくみ<P244> 【コラム】南海トラフ巨大地震<P244> 【資料】世界のおもな国の年間降水量<P245> 【資料】短時間における大雨の回数<P245> 【写真】大雨によってあふれた水が流れた地下道<P245> 【写真】大雨によって浸水したまち<P245> 【写真】打ち上げられた漁船<P246> 【写真】津波の被害を受けた田<P246> 【資料】宮城県にあるおもな海堤の水あげ量の変化<P246> 【写真】地震でぐずれた自動車道<P247> 【資料】日本国内の自動車の月別生産台数<P247> 【資料】地震のえいきようで品うすになったスーパーマーケットの売り場<P247> 【説明】放射性物質<P247> 【資料】放射性物質検査をした米のしるし<P247> 【本文】国や都道府県は、ふだんから、減災のための努力をしています。』<P248> 【写真】海岸沿いにつくられた堤防<P248> 【写真】かさ上げ工事<P248> 【写真】津波ひなんタワー<P248> 【説明】減災<P248> 【資料】津波からまちを守る取り組み<P248> 【本文】国や都道府県は、ふだんから、減災のための努力をしています。東日本大震災の津波の被害を受けたところは、山から大量の土砂を運び出し、海に近い土地のかさ上げ工事をおこなっているところもあります。また、大きな津波が来たときに、高いところへひなんするのために、津波ひなんタワーがつくられています。』<P249> 【写真】川の水面と地面がほぼ同じ高さの地域につくられた堤防<P249> 【写真】砂防ダム<P249> 【説明】前震<P249> 【資料】地面のゆれに強いにつくりにした学校のわりあいのうつつり変わり<P249> 【コラム】大阪府庁の人の話<P249> 【本文】地震がおきても建物などがぐずらないよう、耐震工事がおこなわれています。また、川の増水によるはんらんを防ぐ堤防や、山の土やすな、岩が水と混じって流れ出す土石流を防ぐ砂防ダムがつくられています。』<P249> 【写真】緊急地震速報のテレビ画面<P250> 【資料】2020年7月豪雨での危険度分布<P250> 【本文】国や都道府県・市(区)町村は、防災に関する情報を人々に伝える仕組みをとっています。国は、気象に関する情報として、警報や注意報、緊急地震速報などを国民に伝えます。最近では、数日前までの「警報の可能性」を知らせたり、危険度の分布を確認できたりする取り組みも進めています。市(区)町村では、ひなん指示を出します。また、ハザードマップをつくり、住民への注意のよひかけや、ハザードマップや国の情報などを活用したひなん訓練をしています。』<P250> 【資料】ハザードマップ<P251> 【資料】予想される火口のはんいを示す、富士山のハザードマップ<P251> 【資料】ハザードマップの認定と実際の被害<P251> 【コラム】ハザードマップをつくっている人の話<P251> 【資料】東日本大震災発生直後のひなん行動の内わけ<P252> 【資料】東日本大震災の被害<P252> 【本文】自然災害による被害を減らすためには、国や都道府県・市(区)町村の取り組み(公助)だけでなく、まず、自分の命は自分で守ること(自助)、近所の人が助け合うこと(共助)もたいせつです。』<P252></p>	<p>【国土の環境を守る】 【写真】「建物から救い出された人」<P252> 【国土の環境を守る】 【写真】自然災害がおきやすい場所を話し合う人たち<P250> 【写真】ひなん訓練<P250> 【写真】東日本大震災発生時に近所の人たちとひなんする小・中学生<P253> 【説明】津波でんでんこ<P253> 【コラム】釜石市の人の話<P253></p>	<p>【国土の環境を守る】 【写真】自然災害がおきやすい場所を話し合う人たち<P250> 【写真】ひなん訓練<P250> 【写真】東日本大震災発生時に近所の人たちとひなんする小・中学生<P253> 【説明】津波でんでんこ<P253> 【コラム】釜石市の人の話<P253></p>

「別紙2」(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会)

＜第6学年＞ k 我が国の政治の働きにおける、災害復旧の取組を取り上げているページの扱い

発行者	国・地方公共団体の取組	警察・消防・自衛隊の働き	その他
<p>「わたしたちの生活と政治」 【写真】大震災直後の気仙沼の様子<政治・国際編P46> 【写真】大震災直後の気仙沼漁業の様子<政治・国際編P46> 【写真】かさ上げされる魚市場<政治・国際編P47> 【写真】気仙沼市のがれきを撤去する様子<政治・国際編P47> 【写真】かつおの水あげ再開<政治・国際編P47> 【写真】復興した気仙沼港<政治・国際編P47> 【写真】現在の気仙沼の様子<政治・国際編P47> 【写真】新聞の号外<政治・国際編P47> 【写真】避難所の様子<政治・国際編P48> 【写真】気仙沼市の災害対策本部の様子<政治・国際編P48> 【説明】災害救助法<政治・国際編P48> 【本文】宮城県気仙沼市では、大きな地震の直後に災害対策本部を設けて、避難所の開設や被害状況の確認などの指導を出しました。また、避難した住民のための水、食料、仮設トイレなども宮城県や相互応援協定を結んでいる他県の市などに手配を要請しました。宮城県でも、被害状況をつかむための情報収集を行うとともに、自衛隊に災害時の派遣要請を行いました。また、災害救助法を被災地に送る準備を始めました。<政治・国際編P48> 【資料】災害から人々を助ける政治の働き<政治・国際編P49> 【本文】国(政府)は、災害対策基本法にもとづき、緊急災害対策本部を設けました。各県と連絡をとりながら、自衛隊の派遣人数の増員や、他国への救助要請、必要な物資や機材の準備を進めました。<政治・国際編P49> 【本文】国は、この緊急事態に対応するため、全国各地の消防署から必要な物資を調達しました。<政治・国際編P49> 【写真】第三次補正予算を議決する国会の様子<政治・国際編P50> 【資料】復興に向けた政治の動き<政治・国際編P50> 【写真】復興について話し合う政府の会議<政治・国際編P50> 【説明】東日本大震災復興基本法<政治・国際編P50> 【本文】国(政府)は、県や市と協力して復興を進めるために、国会での話し合いを経て、第一次補正予算を成立させました。<政治・国際編P50> 【資料】復興に向けた政治の動き<政治・国際編P51> 【本文】2013年1月1日から2017年12月31日までの間、国民は東日本大震災からの復興に役立つための特別な税金を国に納めることになっています(復興特別税)。<政治・国際編P51> 【資料】復興に向けた政治の動き<政治・国際編P51> 【資料】復興に向けた政治の動き<政治・国際編P52> 【コラム】気仙沼市役所の小野寺さんの話<政治・国際編P52> 【説明】まちづくり<政治・国際編P52> 【写真】水切り体験の様子<政治・国際編P53> 【写真】気仙沼の水産資源を生かした商品<政治・国際編P53> 【写真】気仙沼大島大橋<政治・国際編P53> 【写真】ふたは茶葉学園中学校、高等学校(福島県広野市)<政治・国際編P55> 【写真】輸出される農産物<政治・国際編P55> 【写真】東日本大震災・原子力災害伝承館<政治・国際編P55> 【写真】福島県いわき市にある「ふたは茶葉学園」の校舎<政治・国際編P55> 【資料】避難指示が出された区域<政治・国際編P55> 【写真】福島第一原子力発電所<政治・国際編P55> 【本文】現在も、復興に向けたさまざまな取組が行われています。「ふるさとにくらす」という当たり前の願いをかきかき、これらも国をあげて取り組んでいく政治の大きな働きが必要とされています。<政治・国際編P55></p>	<p>「わたしたちの生活と政治」 【本文】自衛隊の災害派遣は、何度かに分けて増員され、過去最大の10万人規模となりました。<政治・国際編P49> 【写真】緊急消防援助隊による救命・救助活動<政治・国際編P49> 【写真】自衛隊による救命・救出活動<政治・国際編P49> 【写真】ともに生きる暮らしと政治 【写真】避難する人々を救助する自衛隊員<政治・国際編P51> 【写真】支援物資を運ぶ自衛隊員<政治・国際編P52> 【本文】市や県との取り組みだけでなく、全国から派遣された警察や消防、自衛隊など大勢の人々が、被災した人々の捜索や救護にあたりました。<政治・国際編P53></p>	<p>「わたしたちの生活と政治」 【写真】ボランティアによるたき出し<政治・国際編P48> 【写真】救助活動をする外国の救援隊<政治・国際編P49> 【写真】海野市・シャークミュージアム<政治・国際編P53> 【コラム】災害の教訓を未来に伝える<政治・国際編P53> 【写真】中学生による語り部活動<政治・国際編P53></p>	

東書

「別紙2」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会)

＜第6学年＞ k 我が国の政治の働きにおける、災害復旧の取組を取り上げているページの扱い

発行者	国・地方公共団体の取組	警察・消防・自衛隊の働き	その他
<p>【写真】市街地に流れこむ津波(岩手県宮古市) <P50> 【資料】東日本大震災での各地の主な震度 <P50> 【資料】東日本大震災での被害(消防庁、復興庁) <P50> 【写真】津波で破壊されたまちの様子 <P51> 【写真】避難所となった小学校の体育館の様子 <P52> 【資料】釜石市での被害(釜石市) <P52> 【本文】釜石市は、地震発生直後に災害対策本部を市役所に設置し、連絡や移動の手段が限られている中で被害状況を調べて、県や他の市町村に協力を要請しました。岩手県は、災害救助法という法律にもとづいて、国や他の都道府県に協力を求めるとともに、自衛隊や日本赤十字社に対し、救助を要請しました。また、支援物資を用意して送り出したり、通信や輸送の手段を確保したりするふたつ、緊急の取り組みを進めていきました。釜石市は、家をばなれなければならぬと決めた人たちのための避難所を、学校や公民館などの公共施設に設けて、水や食料など緊急に必要な物資を運び入れました。 <P52> 【資料】被災した地域を支援する政治のしくみ <P53> 【写真】釜石市と岩手県庁の災害対策本部が行ったテレビ電話による会議の様子 <P53> 【写真】避難所を訪問される当時の天皇陛下 <P53> 【写真】仮設住宅 <P53> 【本文】震災の8日後には、仮設住宅の建設が始まり、1か月後から入居が開始されました。2か月後には電気が、4か月後には水道がほぼ復旧しました。 <P53> 【写真】再開した釜石漁港と生産者 <P54> 【写真】復興まちづくり委員会 <P54> 【写真】まちづくりについて市民から意見をきく懇談会 <P54> 【写真】仮設校舎で学ぶ小学生 <P54> 【本文】「市では、震災から一日も早い復興と、新しいまちづくりのために、「復興まちづくり基本計画」をつくりました。計画づくりの中心となる復興まちづくり委員会には、さまざまな立場の人々が市民の代表として参加して、意見を述べました。また、市は、懇談会などを開いて、市民の願いを計画づくりに生かしました。 <P54> 【資料】復興に向けた市の計画ができるまで <P55> 【説明】復興庁 <P55> 【本文】「こうして完成した『復興まちづくり基本計画』は、市議会で検討され、2011(平成23)年12月に決定されました。この計画にもとづいて、市内の地区ごとさらさら具体的に計画を立てて、まちづくりを進めていきます。 <P55> 【本文】「国は、被災した地域の復興をすみやかに進めるために、2011年、東日本大震災復興基本法や復興庁設置法をつくり、その翌年に復興庁を発足させました。そして、一般の予算とは別に復興に向けた予算として震災からの5年間に約26兆円の資金を投入しました。 <P55> 【写真】防波堤を再建する工事 <P56> 【写真】工事が完了した釜石漁港 <P56> 【写真】高台に建てられた宅地 <P56> 【写真】高台に完成した新しい小・中学校の校舎 <P56> 【本文】釜石漁港の海中の防波堤は、津波で破壊されましたが、津波の市街地への流入をおくらせたり高さをかさねたりする役割を果たしたことがわかったため再建されました。海に沿った陸地にも防潮堤などが新たに作られました。津波の危険がある地域では、土地を高くするかさ上げ工事が行われたり、住宅を移転するために高台に宅地が整えられたりしました。家を失った人々のための公営住宅も次々に建てられて、2018(平成30)年までに約1300戸が完成しました。仮設校舎の小・中学校は、高台に完成した新しい校舎へと移転しました。市内の漁港と魚市場や水産加工施設などを整える工事も、2017年までにほぼ完了しました。 <P56> 【本文】「災害が発生したときに備えた体制をつくり、災害に関する情報を提供したりするなどのことは、国全体で進めています。また、被害を少しでも減らすために、国や都道府県、市区町村は、安全基準の見直しや災害に強いまちづくりを進めています。 <P57> 【写真】防潮堤を利用したサイクリングロード <P65> 【資料】復興のまちづくり(いわき市) <P65></p>	<p>【写真】「ともに生きる暮らしと政治」 【資料】「ともに生きる暮らしと政治」の例 <P51> 【写真】避難所での暮らしの様子 <P51> 【写真】支援物資を運ぶ自衛隊員 <P52> 【本文】「市や県の取り組みだけでなく、全国から派遣された警察や消防、自衛隊など大勢の人々が、被災した人々の捜索や救護にあたりました。 <P53></p>	<p>【写真】「津波は、漁船や漁港の施設にも大きな被害をおよぼしましたが、漁港にたずさわるとともに、困難な中でも生活をしていくために仕事を再開しました。 <P54> 【写真】避難階段を使って行われた津波からの避難訓練 <P57> 【コラム】自分たちの安全は自分たちで守る <P57> 【写真】小学生を導きながら津波から避難する中学生たち <P57></p>	<p>【写真】「ともに生きる暮らしと政治」 【資料】「ともに生きる暮らしと政治」の例 <P51> 【写真】避難所での暮らしの様子 <P51> 【写真】支援物資を運ぶ自衛隊員 <P52> 【本文】「市や県の取り組みだけでなく、全国から派遣された警察や消防、自衛隊など大勢の人々が、被災した人々の捜索や救護にあたりました。 <P53> 【本文】「津波は、漁船や漁港の施設にも大きな被害をおよぼしましたが、漁港にたずさわるとともに、困難な中でも生活をしていくために仕事を再開しました。 <P54> 【写真】避難階段を使って行われた津波からの避難訓練 <P57> 【コラム】自分たちの安全は自分たちで守る <P57> 【写真】小学生を導きながら津波から避難する中学生たち <P57></p>

教出

「別紙2」(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会)

<第6学年> k 我が国の政治の働きにおける、災害復旧の取組を取り上げているページの扱い

発行者	国・地方公共団体の取組	警察・消防・自衛隊の働き	その他
<p>日 文</p>	<p>「わが国の政治のはたらき」 【写真】平成26年広島豪雨災害の被害の被害のようす<P46> 【写真】平成30年西日本豪雨災害の被害のようす<P46> 【写真】平成26年広島豪雨災害発生当時と復旧後の安佐北区<P47> 【写真】平成30年西日本豪雨災害発生当時と復旧後の国道2号線<P47> 【説明】復旧・復興<P47> 【本文】広島市では、まず、災害対策基本法にもとづき、災害対策本部を設置しました。人命救助を第一にしながら、被害状況の確認や避難所の開設などをおこないました。また、広島県内広域消防相互応援協定などにもとづいて、ほかの市などへ支援を要請しました。自衛隊に災害派遣要請を出すとともに、消防庁や警視庁に救助隊や災害派遣隊の派遣を要請しました。国は県や市と協力しながら、復旧・復興に向けた法律上の整備など、国としての支援をおこないました。』<P48> 【資料】災害が発生した直後の政治のはたらき<P48> 【写真】災害対策本部のようす<P48> 【説明】災害対策本部<P48> 【説明】広島県内広域消防相互応援協定<P48> 【本文】広島県は、まちを災害前のもの状態に戻す(復旧)だけでなく、より安全で住みやすいようにすること(復興)にも取り組んでいます。毎年、県民から集めた税金をもとに、豪雨災害の復旧や復興に向けた取り組みを進めています。』<P49> 【写真】県知事の参見のようす<P49> 【資料】広島県の収入と支出<P49> 【写真】避難所のようす<P49> 【資料】復興まちづくりイメージ<P50> 【写真】砂防ダムの建設のようす<P50> 【資料】復興まちづくりビジョンの基本方針<P50> 【本文】国や県がまず協力して進めているのは、砂防ダムの建設でした。砂防ダムは、土石流が発生したときに、土砂の勢いを弱めたり、止めたりすることができ、市ではおよそ10年間をかけて、「復興まちづくりビジョン」として、災害に強いまちづくりを進めています。砂防ダムのほかに、避難路の整備、雨水排水施設などの整備、住宅再建の支援など、税金を使ってさまざまな災害復興の取り組みをおこないました。』<P50> 【写真】災害経験を生かす取り組み<P51></p>	<p>「わが国の政治のはたらき」 【写真】自衛隊による救命・救出活動<P48></p>	<p>「わが国の政治のはたらき」 【写真】活動するボランティアの人たち<P49> 【コラム】地域の人たちがつづいた復興交流館「モンドラゴン」<P51> 【写真】復興交流館「モンドラゴン」と広島風お好み焼きを焼く人たち<P51></p>

「別紙2」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会)

<第6学年> | 歴史上の事象と関わりの深い人物名

発行者	古代			中世			近世			近代			現代		
	藤原道長 紫式部 清少納言	源頼朝 源義経 源義朝 北条時宗 北条時長 竹内季長 足利義満 足利義隆 足利義隆	長 言 之 衛 衡 秀 泰 盛 河 天皇 朝 綏 綏 家 政 子 宗 長 盛 氏 滿 政	雪舟 大内政弘 観阿弥 土佐光茂 織田信長 豊臣秀吉 武田勝頼 徳川家康 明智光秀 フランシスコ・コ・ザ ビエル 石田三成 足利義昭	徳川秀忠 徳川家光 徳川家綱 天草四郎(益田時貞) シヤクシャヤイン 葛飾北斎 杉田玄白 本居宣長 近松門左衛門 歌川広重 ゴッホ 前野良沢 伊能忠敬 長久保赤水 大塩平八郎 空海 シーボルト 平賀源内	ペリー 西郷隆盛 大久保允 木戸孝允 徳川慶喜 明治天皇 坂本龍馬 勝海舟	嘉十郎 四郎 吉 諭子 梅子 退助 文 博 信 宗光 希典 平八郎 子 野晶子 太郎 野晶子 大石 規 英世 一葉 三郎 福造 賀潔 志	田中正造 平塚らいてう 市川房枝 徳川栄一 昭武 ヒトラ一 ル・コルビュジエ 昭和天皇	吉野彰						
東書	卑弥呼 仁徳天皇 ワカタケル大王 ヤマタケル 聖徳太子 煬帝 小野妹子 蘇我入鹿 中大兄(天 智天皇) 中臣鎌足(藤原 鎌足) 山上憶良 聖武天皇 文武天皇 行基 鑑真	源頼朝 源義経 源義朝 北条時宗 北条時長 竹内季長 足利義満 足利義隆 足利義隆	長 言 之 衛 衡 秀 泰 盛 河 天皇 朝 綏 綏 家 政 子 宗 長 盛 氏 滿 政	雪舟 大内政弘 観阿弥 土佐光茂 織田信長 豊臣秀吉 武田勝頼 徳川家康 明智光秀 フランシスコ・コ・ザ ビエル 石田三成 足利義昭	ペリー 西郷隆盛 大久保允 木戸孝允 徳川慶喜 明治天皇 坂本龍馬 勝海舟	嘉十郎 四郎 吉 諭子 梅子 退助 文 博 信 宗光 希典 平八郎 子 野晶子 太郎 野晶子 大石 規 英世 一葉 三郎 福造 賀潔 志	田中正造 平塚らいてう 市川房枝 徳川栄一 昭武 ヒトラ一 ル・コルビュジエ 昭和天皇	吉野彰							
教出	卑弥呼 仁徳天皇 ワカタケル ワカケ ヤマタケル/ミコト 菅原道真 聖徳太子(厩戸 王) 小野妹子 中大兄(天 智天皇) 中臣鎌足(藤原 鎌足) 聖武天皇 行基 鑑真	源頼朝 源義経 源義朝 北条時宗 北条時長 竹内季長 足利義満 足利義隆 足利義隆	長 言 之 衛 衡 秀 泰 盛 河 天皇 朝 綏 綏 家 政 子 宗 長 盛 氏 滿 政	雪舟 大内政弘 観阿弥 土佐光茂 織田信長 豊臣秀吉 武田勝頼 徳川家康 明智光秀 フランシスコ・コ・ザ ビエル 石田三成 足利義昭	シ-ポルト 吉田松陰 広瀬淡窓 緒方洪庵 大塩平八郎 徳川吉宗 大岡忠相 青木昆陽 ペリー 木戸孝允(桂小 五郎) 西郷隆盛 大久保利通 勝海舟 坂本龍馬 徳川慶喜	岩倉具視 山口尚文 伊藤博文 津田梅子 浩沢栄一 吉 福沢諭吉 モース フェノロサ 岡倉天心 陸奥宗光 板垣退助 大隈重信 楠瀬喜多 明治天皇 東郷平八郎 乃木希典 与謝野晶子 小村寿太郎	田中正造 北里柴三郎 志賀潔 野口英世 新渡戸稲造 平塚らいてう 山田孝野次郎 後藤新平 石川倉治 南方熊楠 杉原千畝 根井三郎 ヒトラ一	オハバ大統領 山中伸弥 野村萬齋							

「別紙2」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会)

<第6学年> | 歴史上の事象と関わりの深い人物名

発行者	古代	中世	近世	近代	現代		
日文	<p>卑弥呼 仁徳天皇 ワカタケル大王 ヤマタノケルノ ミコト 聖徳太子 小野妹子 中大兄皇子(天智天皇) 天智天皇 中臣鎌足(藤原鎌足) 聖武天皇 鑑基 藤原道長 菅原道真 紫式部 清少納言</p>	<p>平清盛 源頼朝 源義経 源義朝 源義仲 北条時宗 北条季長 竹崎季氏 足利義満 足利義政 雪舟 観阿弥 世阿弥</p>	<p>織田信長 武田勝頼 徳川家康 豊臣秀吉 フラシスコ＝ザビエル エール 今川義元 大友宗麟(義鎮) 千利休</p>	<p>石田三成 徳川家光 益田時貞(天草四郎) シャクシャイン 雨森芳洲 近松門左衛門 歌川広重 ゴッホ 杉田玄白 前野良沢 伊能忠敬 本居宣長 上杉鷹山</p>	<p>後藤新平 ペリ 大塩平八郎 西郷隆盛 大久保利通 木戸孝允 伊藤博文 岩倉具視 勝海舟 坂本龍馬 板垣退助 徳川慶喜 明治天皇 三条美芳 山口尚芳 福沢諭吉 陸奥宗光 小村寿太郎 大隈重信 黒田清隆</p>	<p>東郷平八郎 与謝野晶子 田中正造 北里柴三郎 野口英世 津田梅子 平塚らいてう 山田孝野次郎 斎藤隆夫 山本五十六 昭和天皇 島田勲 マッカーサー</p>	<p>野村万作 湯川秀樹 朝永振一郎 川端康成 江崎玲於奈 佐藤栄作 福井謙一 利根川進 大江健三郎 白川秀樹 野依良治 小柴昌俊 田中耕一 南部陽一郎 小林誠 益川敏英 下村脩 鈴木章 根岸英一 山中伸弥 赤崎勇 天野浩二 中村修章 梶田隆章 大隅良典 カズオ・イシグロ 本庶佑 吉野彰 真鍋淑郎</p>

「別紙2」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会)

<第6学年> m 国宝、重要文化財、世界文化遺産等、国家・社会の発展を象徴する文化遺産名

発行者	古代			中世			近世			近代			現代		
	正倉院 鑑真像 唐招提寺	三内丸山遺跡 台掌土偶 仁徳天皇陵古墳 熊本県江田船山古墳から 出土した鉄刀 埼玉県稲荷山古墳から出 土した鉄剣 法隆寺 大仏	法隆寺 東大寺の大仏 唐招提寺 正倉院 困基を築しむ貴族 (源氏物語絵巻) 大和絵(源氏物語 絵巻)	大和絵(源氏物語絵巻) 寸松庵色紙 中尊寺金色堂内陣 中尊寺金色堂 毛越寺の庭園 鳥獸戯画 貴族を守る武士 厳島神社 元との戦い	銀閣 金閣 書院造の部屋(東求堂) 雪舟がえがいたすみ絵 (天橋立図) 雪舟の作品(四季花鳥図) 龍安寺の石庭(月次風俗 図屏風) 壬生の花田植 能楽 石見銀山 名護屋城(肥前名護屋図 屏風) 姫路城	日光東照宮陽明門 首里城 納の浦 沼名前神社能舞台 大浦天主堂	高麗家住宅 旧開智学校 官営富岡製糸場 端島炭鉱跡	和食 白川郷・五箇山の合掌造り集落 紀伊山地の霊場と参詣道 富士山 ル・コルビュジエの建築作品 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連 遺産群 原爆ドーム							
東書			厳島神社 蒙古襲来絵詞 中尊寺金色堂の内部 金閣 銀閣 東求堂 天橋立図 龍安寺の石庭 月次風俗図屏風 洛中洛外図屏風 能と狂言	日本にやってきたヨー ロッパの船と人々の様子 (南蛮屏風) 石見銀山のあと 関ヶ原の戦い(関ヶ原合 戦図屏風)	日光東照宮 旧金毘羅大芝居「金丸 座」 本間家の屋しき 朝鮮通信使に関する記 録	現在も残る高岡製糸場の建物 八幡製鉄所	原爆ドーム								
教出	三内丸山遺跡 縄文土器(新潟県出土) 土偶(青森県出土) 管玉と銅剣 銅たぐ(香川県出土) 大仙(仁徳陵)古墳 はにわ(群馬県)出土) 江田船山古墳(熊本県) から出土した鉄刀 稲荷山古墳(埼玉県)から 出土した鉄剣 金印	東大寺の大仏殿 東大寺の鑑真像 正倉院 藤原道長がよんだ 歌 大和絵(源氏物語 絵巻)	鎌倉の歴史	日光東照宮 歌舞伎 人形浄瑠璃 能・狂言 雅楽 和食 日光二荒山神社 日光山輪王寺	富岡製糸場	原爆ドーム									
日文	三内丸山遺跡 銅鐸と銅鐸にえがかれた 絵 大仙(仁徳天皇陵)古墳 高松塚古墳の壁画 江田船山古墳から出土し た鉄刀 稲荷山古墳から出土した 鉄剣 日本書紀 法隆寺 深大寺の釈迦如来像														

「別紙2」(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会) <第6学年> n 我が国の歴史上の主な事象における、国内外に残されている課題等を取り上げているページの扱い

発行者	自然災害からの復興に関する記述	少子高齢化の問題に関する記述	環境問題に関する記述	日本人拉致問題に関する記述	領土問題に関する記述	その他
東書	<p>「日本の歴史」 【本文】「世界でも有数の地震国といわれる日本では、平成に入り、大きな自然災害がいくつか発生しました。1995年には阪神・淡路大震災、2011年には東日本大震災が発生しました。東日本大震災では、地震による津波が発生し、東北地方から関東地方にかけて太平洋沿岸の広い範囲に大きな被害をもたらしました。ほかにも台風や大雨、猛暑などの自然災害が、毎年のように発生しています。」<歴史編P150～151> 【写真】阪神・淡路大震災と20年後の兵庫県神戸市の様子<歴史編P151> 【写真】阪神・淡路大震災のことを未来に伝えていくための式典(2022年)<歴史編P151> 【写真】東日本大震災直後と10年後の宮城県女川町の様子<歴史編P151> 【写真】東日本大震災の被災地でボランティアをする子どもたち<歴史編P151> 【写真】令和2年7月豪雨の被害(熊本県人吉市)<歴史編P151></p>	<p>「日本の歴史」 【本文】「日本の人口は、2008年をピークに減少に転じ、少子高齢化も急速に進んでいます。」<歴史編P150> 【資料】クラスで話し合うために出した問題の例 ・少子化や高齢化、社会保障の問題<歴史編P152></p>	<p>「日本の歴史」 【写真】水俣病をめぐる裁判(1992年)<歴史編P149></p>	<p>「日本の歴史」 【本文】「北朝鮮が日本人を無理やり連れ去った拉致問題や、核兵器の開発などの問題が残っています。」<歴史編P153> 【写真】北朝鮮から帰国した拉致被害者<歴史編P153></p>	<p>「日本の歴史」 【資料】クラスで話し合うために出した問題の例 ・領土をめぐる問題<歴史編P152> 【本文】「日本固有の領土である北方領土の返還問題は残されており、日本は返還を求めて交渉を続けています。」<歴史編P153> 【本文】「日本固有の領土である竹島を、韓国は1954年から不法に占領しており、日本は抗議を続けています。」<歴史編P153> 【本文】「中国は日本固有の領土である尖閣諸島の領有を主張しています。領有を主張して尖閣諸島が尖閣諸島は日本が有効に支配しており、領土問題は存在しません。」<歴史編P153></p>	<p>「日本の歴史」 【コラム】日本にもどれなかつた人々<歴史編P142> 【写真】新型コロナウイルスの感染が拡大して出歩く人がへったまち(2020年、東京稲沢谷区)と、同じ場所のふたんの様子(2017年)<歴史編P150> 【資料】クラスで話し合うために出した問題の例 ・防災、感染症対策に向けた取り組みの問題 ・高齢者や障がいのある人たちの権利をめぐらる問題 ・女性の権利や社会参加の権利をめぐらる問題 ・アイヌ民族、在日韓国・朝鮮人、外国人への偏見や差別の問題 <歴史編P152> 【コラム】アメリカ軍基地が残る沖繩<歴史編P153> 【コラム】アイヌの伝統文化を守るために<歴史編P153></p>
教出	<p>「日本の歴史」 【写真】東日本大震災の被害について説明する中学生・高校生語り部<P232> 【本文】「日本では、災害がくり返し起こってきました。2011(平成23)年には、東日本大震災が起こり、各地に大きな被害をもたらしました。近年では、世界的に広がる感染症への対策も大きな課題です。こうした災害などへの対策にも取り組んでいく必要があります。」<P232></p>	<p>「日本の歴史」 【本文】「現在の日本では、少子化・高齢化が進んで社会の様子は大きく変わり、すべての人が暮らしやすい社会がより大切になってきています。」<P232></p>	<p>「日本の歴史」 【コラム】日本で最初の自然保護運動をおこした南方熊楠<P208> 【本文】「環境問題を解決したり平和で平等な世界を実現したりするために、世界全体で協力していくことが大切です。」<P232> 【資料】公害の教訓を発信する<P235></p>	<p>「日本の歴史」 【コラム】韓国・北朝鮮と日本人を無理やり連れ去ったという事実を認めました。<P230> 【写真】日本と北朝鮮の代表と話し合い<P230></p>	<p>「日本の歴史」 【写真】竹島(島根県)<P230> 【コラム】未解決の北方領土<P231> 【コラム】中国と日本<P231> 【地図】北方領土<P231> 【資料】尖閣諸島をめぐる課題<P250></p>	<p>「日本の歴史」 【コラム】沖繩のアメリカ軍基地<P231> 【写真】沖繩のアメリカ軍基地<P231> 【写真】広島平和記念公園をおとすアメリカのオバマ大統領(当時)<P231> 【本文】「アイヌの人たちや障がいのある人などに対する差別や偏見、性別のちがいや性的少数者をめぐる差別もなくなり、いかなければなりません。」<P232> 【写真】世界子ども平和会議(2015年 長崎県)<P232> 【コラム】戦争の体験を語りつぐ<P235></p>

「別紙2」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会)
 <第6学年> n 我が国の歴史上の主な事象における、国内外に残されている課題等を取り上げているページの扱い

発行者	自然災害からの復興に関する記述	少子高齢化の問題に関する記述	環境問題に関する記述	日本人拉致問題に関する記述	領土問題に関する記述	その他
日本文	<p>「日本のあゆみ」 【写真】東日本大震災での自衛隊の救助活動(2011年、宮城県)<P226> 【写真】熊本地震での支援ボランティア(2016年、熊本県)<P226> 【本文】大規模な自然災害への対応などの課題もあります。』<P226></p>	<p>「日本のあゆみ」 【本文】日本では、少子高齢化が進み、人口が減っています。』<P226></p>	<p>「日本のあゆみ」 【写真】地球温暖化防止会議(1997年、京都府)<P223> 【本文】「1997年に京都で開催された地球温暖化防止会議では、世界の国々が協力して、温暖化防止に取り組むことを確認しました。』<P223></p>	<p>「日本のあゆみ」 【本文】北朝鮮側が、日本人を北朝鮮に無理やり連れ去っていたことを認めました。』<P225></p>	<p>「日本のあゆみ」 【本文】日本固有の領土である北方領土や竹島をめぐる問題の解決に向け、日本政府は慎重に対応しています。』<P224></p>	<p>「日本のあゆみ」 【本文】アメリカ軍基地は残されたままで、安全性や騒音などの問題、基地の移転などは、大きな課題として残されています。』<P224> 【写真】不時着し炎上したアメリカ軍のヘリコプター(2017年、沖縄県)<P224> 【写真】新型コロナウイルス感染症患者を治療する医療関係者(2020年、東京都)<P225> 【本文】「2020(令和2)年には、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が世界的に大流行(パンデミック)をおこし、深刻な状況が続いています。これらは、世界中が協力し合って解決しなければならぬ問題です。』<P225> 【写真】障がいのあるひとが働く職場<P226> 【本文】「日常生活や結婚・就職などで人権がおかされている事実もあります。』<P226> 【本文】「先住民のアイヌ民族や、在日韓国・朝鮮人に対する偏見や差別もあります。』<P226> 【写真】ウポポイ(民族共生象徴空間)でアイヌ古式舞踊を上演する人たち(北海道白老町)<P227> 【写真】ロシア軍の攻撃でこわれた建物の中を歩く人(2022年、ウクライナ)<P227></p>

「別紙2」(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 (小学校 社会)
 <第6学年> p 国際社会において日本の関係機関の役割等を取り上げたページの扱い

発行者	教育の分野に関する記述	医療の分野に関する記述	農業の分野に関する記述	その他
<p>【世界の中の日本】 【写真】ユニセフによる学校への援助<政治・国際編P97> 【写真】ユニセフの支援を受けた給食<政治・国際編P99> 【コラム】ユニセフについて調べたこと<政治・国際編P102> 【写真】ユニセフによる世界文化遺産のアンコールワットの修復活動<政治・国際編P99> 【コラム】セネガルで活動した清水さんの話<政治・国際編P102> 【写真】日本のNGO「シャーンティ国際ボランティア会」が協力している移動図書館<絵本を手に取る子どもたち><政治・国際編P103> 【写真】ODAによって建設された小学校<政治・国際編P106> 【写真】日本ユニセフ協会文庫のサッカ一選手による活動<政治・国際編P106></p>	<p>【世界の中の日本】 【資料】ユニセフへ募金した100円のできること<政治・国際編P99> 【写真】青年海外協力隊の活動(リハビリの指導)<政治・国際編P102> 【写真】日本のNGO「日本リハビリ」による結核予防の啓発イベント<政治・国際編P103> 【コラム】JNGOLレポート<政治・国際編P103></p>	<p>【世界の中の日本】 【写真】アフガニスタンからの難民を診療する中村さん<P272> 【写真】バキスタンの山岳部での移動診療<P272> 【説明】難民<P272> 【写真】現地の人々と協力して井戸をほるベネジャワール会のスタップ<P273> 【写真】水をくみに来た子どもたち<P273> 【コラム】中村さんの話<P273> 【説明】NGO(非政府組織)<P273> 【コラム】ベネジャワール会の職員の話<P275> 【写真】食料の配給に並ぶ子どもたち(ハンガララジュ)<P276> 【写真】予防接種を受ける子ども(南スーダン)<P276> 【資料】5才未満の子どもが命を失う原因<P276> 【資料】子どもの権利条約の四つの柱<P277> 【コラム】ユニセフと日本<P277></p>	<p>【世界の中の日本】 【写真】ユニセフの協力のもと、日本ユニセフ協会から東日本大震災の被災地に届けられた文房具セットを受け取る子どもたち<P277> 【写真】カンボジアの浄水場で職員の職員に指導する北九州市水道局の職員<P282> 【資料】青年海外協力隊が活動している地域の広がり<P282> 【写真】レベル平和賞の授賞式でのマララ=ユスフザイさん<P284> 【コラム】女子にも教育を—マララ=ユスフザイさんのうたったえ<P284> 【写真】マララさんへの襲撃に抗議する人々(パキスタン)<P284></p>	<p>【世界の中の日本】 【資料】募金できる支援の例<P276> 【コラム】子どもの権利条約<P277> 【写真】内戦による空爆からのがれる人々(シリア)<P278> 【写真】テロによる攻撃を受けたニューヨークの世界貿易センタービル<P278> 【写真】国連の活動費用の負担割合<P278> 【写真】国連総会の様子<P279> 【写真】難民キャンプで暮らす人(イラク)<P279> 【写真】国連の平和維持活動(PKO)に参加した日本の自衛隊(南スーダン)<P279> 【写真】日本は、世界でゆいゆい原子爆弾の被害を受けた国として、国連でも、核兵器のおそろしさや核兵器廃絶の大切さを世界にうたうための取り組みを続けています。<P279> 【資料】JICAが行う技術協力<P283></p>
<p>【世界の中の日本】 【写真】SDGsを定めた国連の会議<政治・国際編P96> 【写真】日本人女性初の国連事務次長となった中津京さん<政治・国際編P98> 【資料】国連基金の国別割合<政治・国際編P98> 【本文】日本は、国連に1956(昭和31)年に加盟し、その一員として大きな役割を果たしてきました。国連の活動に関わる日本人も増えてきています。<政治・国際編P98> 【写真】国連の平和維持活動に参加する自衛隊<政治・国際編P99> 【本文】日本は、国連の一員として、世界各地で平和維持活動に参加してきました。<政治・国際編P99> 【資料】青年海外協力隊の派遣国<政治・国際編P102> 【本文】ODA(政府開発援助)は、政府による国際協力の活動です。社会環境が十分に整備されていない国に対し、資金や技術を提供しています。<政治・国際編P102></p>	<p>【世界の中の日本】 【写真】空爆が行われている中で食料支援<P274> 【写真】機械を操作して水路の工事を進める中村さん<P274> 【資料】中村さんの主な活動<P274> 【写真】水路をほる人々<P275> 【写真】干ばつで砂漠化している農地と水路がつけられた緑かもどった農地の様子<P275> 【写真】中村さんたちが現地に建設、寄贈したイスラム教のモスク<P275> 【コラム】ベネジャワール会の職員の話<P275> 【写真】ユニセフから日本に届けられた食料を使った小学校の給食<P277> 【写真】農業用の機械の使い方を教えるJICAの日本人専門家(マダガスカル)<P282> 【資料】JICAが行う技術協力<P283></p>	<p>【世界の中の日本】 【写真】農業技術を広げる青年海外協力隊員<P288> 【本文】食料不足の国では、日本の農業技術を広げたり、畜産や養蚕の方法を教えたたりする協力もおこなってききました。<P288></p>	<p>【世界の中の日本】 【写真】ユニセフは、世界の子どもが平和で健康的にくらせるよう、子どもの権利条約を基本にして、保健・衛生・栄養・教育などを支援しています。<P283> 【本文】ユニセフは、世界の子どもが平和で健康的にくらせるよう、子どもの権利条約を基本にして、保健・衛生・栄養・教育などを支援しています。<P283> 【コラム】給食研究所(東京都清瀬市)<P269> 【写真】医療に携わる技術者さんによるようこそ、国境なき医師団<P269> 【写真】東日本大震災の被災者の診療をおこなう国境なき医師団<P269> 【本文】医療援助をおこなっている「国境なき医師団」という団体があります。<P269></p>	<p>【世界の中の日本】 【写真】SDGsを定めた国連の会議<政治・国際編P96> 【写真】日本人女性初の国連事務次長となった中津京さん<政治・国際編P98> 【資料】国連基金の国別割合<政治・国際編P98> 【本文】日本は、国連に1956(昭和31)年に加盟し、その一員として大きな役割を果たしてきました。国連の活動に関わる日本人も増えてきています。<政治・国際編P98> 【写真】国連の平和維持活動に参加する自衛隊<政治・国際編P99> 【本文】日本は、国連の一員として、世界各地で平和維持活動に参加してきました。<政治・国際編P99> 【資料】青年海外協力隊の派遣国<政治・国際編P102> 【本文】ODA(政府開発援助)は、政府による国際協力の活動です。社会環境が十分に整備されていない国に対し、資金や技術を提供しています。<政治・国際編P102></p>
<p>【世界の中の日本】 【写真】ユニセフによる世界遺産の修復<P265> 【本文】青年海外協力隊は、日本の国際協力をおこなう組織である。国際協力機構(JICA)の事業の一つです。<P268> 【本文】日本から学校の先生を隊員として派遣し、現地の先生に授業計画の立て方や、指導のしかた、教材のつくり方などを教えます。<P268> 【写真】教員を育てる学校で活動する青年海外協力隊員<P268></p>	<p>【世界の中の日本】 【写真】ユニセフは、世界の子どもが平和で健康的にくらせるよう、子どもの権利条約を基本にして、保健・衛生・栄養・教育などを支援しています。<P283> 【本文】ユニセフは、世界の子どもが平和で健康的にくらせるよう、子どもの権利条約を基本にして、保健・衛生・栄養・教育などを支援しています。<P283> 【コラム】給食研究所(東京都清瀬市)<P269> 【写真】医療に携わる技術者さんによるようこそ、国境なき医師団<P269> 【写真】東日本大震災の被災者の診療をおこなう国境なき医師団<P269> 【本文】医療援助をおこなっている「国境なき医師団」という団体があります。<P269></p>	<p>【世界の中の日本】 【写真】SDGsを定めた国連の会議<政治・国際編P96> 【写真】日本人女性初の国連事務次長となった中津京さん<政治・国際編P98> 【資料】国連基金の国別割合<政治・国際編P98> 【本文】日本は、国連に1956(昭和31)年に加盟し、その一員として大きな役割を果たしてきました。国連の活動に関わる日本人も増えてきています。<政治・国際編P98> 【写真】国連の平和維持活動に参加する自衛隊<政治・国際編P99> 【本文】日本は、国連の一員として、世界各地で平和維持活動に参加してきました。<政治・国際編P99> 【資料】青年海外協力隊の派遣国<政治・国際編P102> 【本文】ODA(政府開発援助)は、政府による国際協力の活動です。社会環境が十分に整備されていない国に対し、資金や技術を提供しています。<政治・国際編P102></p>	<p>【世界の中の日本】 【資料】募金できる支援の例<P276> 【コラム】子どもの権利条約<P277> 【写真】内戦による空爆からのがれる人々(シリア)<P278> 【写真】テロによる攻撃を受けたニューヨークの世界貿易センタービル<P278> 【写真】国連の活動費用の負担割合<P278> 【写真】国連総会の様子<P279> 【写真】難民キャンプで暮らす人(イラク)<P279> 【写真】国連の平和維持活動(PKO)に参加した日本の自衛隊(南スーダン)<P279> 【写真】日本は、世界でゆいゆい原子爆弾の被害を受けた国として、国連でも、核兵器のおそろしさや核兵器廃絶の大切さを世界にうたうための取り組みを続けています。<P279> 【資料】JICAが行う技術協力<P283></p>	<p>【世界の中の日本】 【資料】募金できる支援の例<P276> 【コラム】子どもの権利条約<P277> 【写真】内戦による空爆からのがれる人々(シリア)<P278> 【写真】テロによる攻撃を受けたニューヨークの世界貿易センタービル<P278> 【写真】国連の活動費用の負担割合<P278> 【写真】国連総会の様子<P279> 【写真】難民キャンプで暮らす人(イラク)<P279> 【写真】国連の平和維持活動(PKO)に参加した日本の自衛隊(南スーダン)<P279> 【写真】日本は、世界でゆいゆい原子爆弾の被害を受けた国として、国連でも、核兵器のおそろしさや核兵器廃絶の大切さを世界にうたうための取り組みを続けています。<P279> 【資料】JICAが行う技術協力<P283></p>
<p>【世界の中の日本】 【資料】募金できる支援の例<P276> 【コラム】子どもの権利条約<P277> 【写真】内戦による空爆からのがれる人々(シリア)<P278> 【写真】テロによる攻撃を受けたニューヨークの世界貿易センタービル<P278> 【写真】国連の活動費用の負担割合<P278> 【写真】国連総会の様子<P279> 【写真】難民キャンプで暮らす人(イラク)<P279> 【写真】国連の平和維持活動(PKO)に参加した日本の自衛隊(南スーダン)<P279> 【写真】日本は、世界でゆいゆい原子爆弾の被害を受けた国として、国連でも、核兵器のおそろしさや核兵器廃絶の大切さを世界にうたうための取り組みを続けています。<P279> 【資料】JICAが行う技術協力<P283></p>	<p>【世界の中の日本】 【資料】募金できる支援の例<P276> 【コラム】子どもの権利条約<P277> 【写真】内戦による空爆からのがれる人々(シリア)<P278> 【写真】テロによる攻撃を受けたニューヨークの世界貿易センタービル<P278> 【写真】国連の活動費用の負担割合<P278> 【写真】国連総会の様子<P279> 【写真】難民キャンプで暮らす人(イラク)<P279> 【写真】国連の平和維持活動(PKO)に参加した日本の自衛隊(南スーダン)<P279> 【写真】日本は、世界でゆいゆい原子爆弾の被害を受けた国として、国連でも、核兵器のおそろしさや核兵器廃絶の大切さを世界にうたうための取り組みを続けています。<P279> 【資料】JICAが行う技術協力<P283></p>	<p>【世界の中の日本】 【資料】募金できる支援の例<P276> 【コラム】子どもの権利条約<P277> 【写真】内戦による空爆からのがれる人々(シリア)<P278> 【写真】テロによる攻撃を受けたニューヨークの世界貿易センタービル<P278> 【写真】国連の活動費用の負担割合<P278> 【写真】国連総会の様子<P279> 【写真】難民キャンプで暮らす人(イラク)<P279> 【写真】国連の平和維持活動(PKO)に参加した日本の自衛隊(南スーダン)<P279> 【写真】日本は、世界でゆいゆい原子爆弾の被害を受けた国として、国連でも、核兵器のおそろしさや核兵器廃絶の大切さを世界にうたうための取り組みを続けています。<P279> 【資料】JICAが行う技術協力<P283></p>	<p>【世界の中の日本】 【資料】募金できる支援の例<P276> 【コラム】子どもの権利条約<P277> 【写真】内戦による空爆からのがれる人々(シリア)<P278> 【写真】テロによる攻撃を受けたニューヨークの世界貿易センタービル<P278> 【写真】国連の活動費用の負担割合<P278> 【写真】国連総会の様子<P279> 【写真】難民キャンプで暮らす人(イラク)<P279> 【写真】国連の平和維持活動(PKO)に参加した日本の自衛隊(南スーダン)<P279> 【写真】日本は、世界でゆいゆい原子爆弾の被害を受けた国として、国連でも、核兵器のおそろしさや核兵器廃絶の大切さを世界にうたうための取り組みを続けています。<P279> 【資料】JICAが行う技術協力<P283></p>	<p>【世界の中の日本】 【資料】募金できる支援の例<P276> 【コラム】子どもの権利条約<P277> 【写真】内戦による空爆からのがれる人々(シリア)<P278> 【写真】テロによる攻撃を受けたニューヨークの世界貿易センタービル<P278> 【写真】国連の活動費用の負担割合<P278> 【写真】国連総会の様子<P279> 【写真】難民キャンプで暮らす人(イラク)<P279> 【写真】国連の平和維持活動(PKO)に参加した日本の自衛隊(南スーダン)<P279> 【写真】日本は、世界でゆいゆい原子爆弾の被害を受けた国として、国連でも、核兵器のおそろしさや核兵器廃絶の大切さを世界にうたうための取り組みを続けています。<P279> 【資料】JICAが行う技術協力<P283></p>

発行者名	北方領土に関する記述の概要	竹島に関する記述の概要	尖閣諸島に関する記述の概要	その他(領土の範囲等)
東書	<p>「わたしたちの国土」 【写真】択捉島「本州、北海道、九州、四国に次ぐ大きさの島です。」<5年上P13> 【本文】「北海道の北東に続く歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島は、日本固有の領土です。ところが、80年ほど前に起きた太平洋戦争が終わった後にソビエト連邦が不法に占領し、その後もソビエト連邦を引きついでロシア連邦が占領しています。日本はこれらの島を返すように求めて、交渉を続けています。」<5年上P14> 【写真】根室から見える歯舞群島<5年上P15> 【資料】北方領土の位置<5年上P15> 「日本の歴史」 【コラム】「まわりの国と日本」ロシア連邦とは、1956年に国交を回復しました(当時はソビエト連邦)。しかし、日本固有の領土である北方領土の返還問題が残されており、日本は返還を求めて交渉を続けています。」<6年歴史編P153> 【資料】北方領土、四つの島<6年歴史編P153></p>	<p>「わたしたちの国土」 【写真】竹島<5年上P14> 【資料】竹島の位置<5年上P14> 【本文】「日本海にある竹島は、日本固有の領土ですが、70年ほど前から韓国が不法に占領しているため、日本は抗議を続けています。」<5年上P14> 「日本の歴史」 【コラム】「まわりの国と日本」大韓民国(韓国)とは、1965年に朝鮮半島を代表する政府として条約を結び、国交を正常化して友好関係を築いていきます。貿易だけでなく、人や文化の交流もさかんになっていきます。一方で、日本固有の領土である竹島を、韓国は1954年から不法に占領しており、日本は抗議を続けています。」<6年歴史編P153></p>	<p>「わたしたちの国土」 【写真】尖閣諸島<5年上P14> 【資料】尖閣諸島の位置<5年上P14> 【本文】「また、東シナ海にある尖閣諸島も日本固有の領土です。中国が自国の領土であると主張していますが、日本が有効に支配しており、領土問題は存在しません。」<5年上P14> 「日本の歴史」 【コラム】「まわりの国と日本」中華人民共和国(中国)とは、1972年に国交が正常化され、1978年には日中平和友好条約を結びました。貿易や技術での提携などを通じて、関係が深まっています。一方、中国は日本固有の領土である尖閣諸島の領有を主張していますが、尖閣諸島は日本が有効に支配しており、領土問題は存在しません。」<6年歴史編P153></p>	<p>「わたしたちの国土」 【資料】国土の広がりともわりの国々<5年上P12> 【説明】日本の排他的経済水域(200海里水域)「自国の沿岸から200海里(約370km)までは、天然資源の開発などの権利が認められています。日本の法律にもとづいて、この境界線を引いてありますが、関係国と協議中のところもあります。」<5年上P12> 【写真】与那国島「台湾に最も近い位置にある沖縄の島です。」、沖ノ島「島の大部分が海にみすみしましとともあります。そのため、まわりをコンクリートブロックで囲み、しずまないようにしています。」、南鳥島「さんごじょうの島で、地震や気象の観測をしています。」<5年上P13> 【本文】「日本は、北半球に位置し、まわりを太平洋や日本海などの海に囲まれている島国です。北海道、本州、四国、九州の四つの大きな島と、沖縄島や択捉島をはじめとする多くの島々が南北に弓のように連なっています。日本には島が6800以上もあります。」<5年上P13> 【資料】日本の領土と領海<5年上P14> 【説明】領土「その国のもつ陸地と、陸地に囲まれた湖や川などを合わせて、領土といえます。また、海岸から12海里(約22km)までの海は、領海とよばれています。領土と領海の上空を領空といえます。許可なく、ほかの国の領土や領空に入っはいけないことになっています。」<5年上P14> 「わたしたちの生活と食料生産」 【資料】排他的経済水域と世界の漁場別に見た日本の漁業生産量<5年上P104> 【説明】排他的経済水域<5年上P104> 【本文】「そのころ、排他的経済水域(200海里水域)といって、各国の魚をとる範囲が決められたそうです。漁獲量が減ったことと関係があるのかな。」、「排他的経済水域によって、各国が自分の国の水産資源を守ろうとしたんだね。」<5年上P104></p>

「別紙2-1」 【我が国の位置と領土の扱い】 (小学校 社会)

発行者名	北方領土に関する記述の概要	竹島に関する記述の概要	尖閣諸島に関する記述の概要	その他(領土の範囲等)
<p>教出</p>	<p>「日本の国土とわたしたちのくらし」 【写真】日本の北のはし、択捉島<5年P15> 【資料】日本の領土、領海、排他的経済水域「北方領土(日本がロシア連邦に返還を求めている島々)」<5年P16> 【写真】外国との国境に近い島々北方領土「これらの島々は、一度も他の国の領土にならなかったことがない、日本固有の領土です。」<5年P17> 【本文】「択捉島もふくめ、国後島・色丹島・歯舞群島、北海道の北東に連なる島々は、北方領土とよばれる日本の領土です。しかし、1945(昭和20)年、太平洋戦争が終わったあとソビエト連邦(今のロシア連邦)が不法に占領し、そこに住んでいた日本人は強制的に退去させられ、今に言い返すをロシア連邦に求め続けています。」<5年P17> 【コラム】北海道とロシア連邦との関係「日本とロシアとの住民どうしの交流が毎年続けられている一方で、ロシアとの間には、北方領土をめぐる問題が解決されずに残されています。北海道で暮らす人々は、となり合うロシアの人たちとよい関係を築いていきたいと願っています。」<5年P51> 【未来を支える食料生産】 【写真】北方領土の歯舞群島(水島島など)が見える納沙布岬<5年P99> 【資料】根室市と北方領土の島々<5年P99> 【本文】根室半島のすぐ近くには、ロシアが不法に占拠している北方領土の島々があり、根室の水産業に大きなえいぎをあたえています。」<5年P99> 【日本の歴史】 【コラム】未解決の北方領土「戦後、ソビエト連邦(ソ連)との国交は回復しましたが、北方領土の問題は解決されませんでした。日本固有の領土である歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島は、ソ連の時代から占領されたままです。1991年にソ連が解体してからは、ロシア連邦との間で返還を求めめる交渉が続いています。」<6年P231> 【資料】北方領土<6年P231></p>	<p>「日本の国土とわたしたちのくらし」 【本文】「また、島根県の竹島では、韓国が自国の領土であると主張し、不法な占拠を続けています。」<5年P17> 【写真】外国との国境に近い島々「日本の領土とわたしたちのくらし」 【本文】「竹島は日本固有の領土、竹島と尖閣諸島「また、沖繩県の尖閣諸島も日本の領土であり、国としての適切な管理をこれまで続けていくにもかわらず、中国が自国の領土であると主張しています。その周りの日本の海では、中国の船が侵入し、日本の同意を得ることなく海洋調査を行ったり、違法に漁業を行ったりするなどの行為をくり返しています。日本は、海上保安庁などによる警戒や取りしめりを強め、そうした行為をしないよう中国に求め続けています。」<5年P18> 【写真】海上保安庁の訓練の様子「また、海に関わる犯罪や、日本の海に侵入してきた船を取りしめるのも、海上保安庁の仕事の一つです。」<5年P18> 【資料】尖閣諸島とその周辺<5年P18> 【資料】沖繩県の島々<5年P32> 【日本の歴史】 【コラム】中国と日本「1972年、中国との国交が正常化し、1978年には日中平和友好条約が結ばれました。」、「一方で、日本と中国の間には、領土をめぐる課題があります。沖繩県の尖閣諸島は日本の固有領土であり、領土問題はないというのが日本の立場ですが、中国も自国の領土であると主張しています。尖閣諸島の周りの海では、中国の船が侵入し、日本の同意を得ることなく海洋調査を行うなどの行為をくり返しています。日本は、そうした行為をしないよう中国に求めています。」<6年P231> 【コラム】尖閣諸島をめぐる課題「沖繩県の尖閣諸島は、日本の領土でありながら、中国が自国の領土であると主張しています。その周りの海では、中国の船が侵入し、日本の同意を得ることなく海洋調査を行ったり、違法に漁業を行ったりするなどの行為をくり返しています。日本は、警戒や取りしめりを強め、そうした行為をしないよう中国に求めています。」<6年P250></p>	<p>「日本の国土とわたしたちのくらし」 【写真】外国との国境に近い島々尖閣諸島「これらの島々は、一度も他の国の領土にならなかったことがない、日本固有の領土です。」<5年P17> 【本文】「沖繩県の尖閣諸島については、領土問題はないというのが日本の立場ですが、中国も自国の領土であると主張しています。」<5年P17> 【コラム】日本固有の領土、竹島と尖閣諸島「また、沖繩県の尖閣諸島も日本の領土であり、国としての適切な管理をこれまで続けていくにもかわらず、中国が自国の領土であると主張しています。その周りの日本の海では、中国の船が侵入し、日本の同意を得ることなく海洋調査を行ったり、違法に漁業を行ったりするなどの行為をくり返しています。日本は、海上保安庁などによる警戒や取りしめりを強め、そうした行為をしないよう中国に求め続けています。」<5年P18> 【写真】海上保安庁の訓練の様子「また、海に関わる犯罪や、日本の海に侵入してきた船を取りしめるのも、海上保安庁の仕事の一つです。」<5年P18> 【資料】尖閣諸島とその周辺<5年P18> 【資料】沖繩県の島々<5年P32> 【日本の歴史】 【コラム】中国と日本「1972年、中国との国交が正常化し、1978年には日中平和友好条約が結ばれました。」、「一方で、日本と中国の間には、領土をめぐる課題があります。沖繩県の尖閣諸島は日本の固有領土であり、領土問題はないというのが日本の立場ですが、中国も自国の領土であると主張しています。尖閣諸島の周りの海では、中国の船が侵入し、日本の同意を得ることなく海洋調査を行うなどの行為をくり返しています。日本は、そうした行為をしないよう中国に求めています。」<6年P231> 【コラム】尖閣諸島をめぐる課題「沖繩県の尖閣諸島は、日本の領土でありながら、中国が自国の領土であると主張しています。その周りの海では、中国の船が侵入し、日本の同意を得ることなく海洋調査を行ったり、違法に漁業を行ったりするなどの行為をくり返しています。日本は、警戒や取りしめりを強め、そうした行為をしないよう中国に求めています。」<6年P250></p>	<p>「日本の国土とわたしたちのくらし」 【写真】日本の国土とその周りに<5年P14> 【本文】「つむぎさんたちは、日本の国土がたくさんの島々からなり、東西南北のはしは本州から遠くはなれた島であることがわかりました。」<5年P16> 【写真】日本の西のはし、与那国島<5年P15> 【写真】日本の南のはし、沖ノ島島「周囲およそ11kmの、さんご礁かなる島です。」<5年P15> 【写真】日本の東のはし、南鳥島<5年P15> 【資料】日本の領土、領海、排他的経済水域<5年P16> 【本文】「陸地だけでなく海までふくめると、日本はとて広いんだね。」、「日本は海に囲まれた島国だから、領海や排他的経済水域が広がるのかな。」<5年P16> 【本文】「不法に占拠されている領土は、どうすれば返してもらえんだろう。」、「国にとって領土はとて大事なけれど、となりの国々とはななかく歩いていきいね。」<5年P17> 【本文】「領土をめぐる問題の解決に向けて、世の中がどのように動いていくか、これからも関心をもていこう。」<5年P18> 【資料】沖繩県の島々<5年P32> 【未来を支える食料生産】 【コラム】漁場を制限する取り組み「1977(昭和52)年ごろから、世界各国は自国の水産資源を守るために、海岸から200海里(約370km)のほんの海で、他国の漁船がとる魚の種類や量を制限するようになりました。」<5年P100> 【資料】200海里水域(領海をふくむ排他的経済水域)と、日本の漁業の生産量<5年P100></p>

発行者名	北方領土に関する記述の概要	竹島に関する記述の概要	尖閣諸島に関する記述の概要	その他(領土の範囲等)
<p>日 文</p>	<p>「日本の国土と人々のくらし」 【写真】日本の北のはし、択捉島 北緯45度33分 東経148度45分<5年P17> 【資料】北方領土、竹島、尖閣諸島の位置<5年P18> 【写真】北方領土である色丹島(北海道)<5年P18> 【本文】「80年ほど前、第二次世界大戦ののち、ソビエト連邦は、択捉島やその近くにある国後島、色丹島、歯舞群島を占領しました。これらの島々は、北方領土とよばれ、現在、ソビエト連邦を引きついでロシアが不法に占拠しています。北方領土は日本固有の領土であるため、日本政府は、これらの島々を返すように、ロシアにはたらかせ、話し合いを続けています。」<5年P18> 【本文】「領土をめぐる問題もあったね。北方領土は日本固有の領土だから、早く返してもらいたいな。」<5年P19> 【本文】「北海道は、日本の北に位置し、本州とは津軽海峡でへだてられています。まわりを太平洋、日本海、オホーツク海に囲まれていて、東には、択捉島をはじめとする北方領土があります。」<5年P50> 「日本のあゆみ」 【資料】北方領土<6年P224> 【本文】「日本固有の領土である北方領土や竹島をめぐる問題の解決に向け、日本政府は慎重に対応しています。」<6年P224></p>	<p>「日本の国土と人々のくらし」 【写真】竹島<5年P18> 【資料】北方領土、竹島、尖閣諸島の位置<5年P18> 【本文】「日本海にある竹島は、日本固有の領土ですが、現在、韓国が不法に占拠しています。」<5年P18> 【資料】竹島の位置<5年P18> 【写真】竹島(島根県)<6年P224> 【本文】「日本固有の領土である北方領土や竹島をめぐる問題の解決に向け、日本政府は慎重に対応しています。」<6年P224> 「世界の中の日本とわたしたち」 【資料】竹島の記載あり<6年P248></p>	<p>「日本の国土と人々のくらし」 【写真】尖閣諸島<5年P18> 【本文】「また、東シナ海にある尖閣諸島は、日本固有の領土で、その領有については、問題がないにもかかわらず、中国が自国の領土であると主張しています。」<5年P18> 【資料】尖閣諸島の位置<5年P18> 「日本のあゆみ」 【写真】尖閣諸島周辺で不審船を取りしめる海上保安庁の巡視艇<6年P224></p>	<p>「日本の国土と人々のくらし」 【写真】日本の西のはし、与那国島 北緯24度27分 東経122度56分<5年P16> 【写真】日本の南のはし、沖ノ島 北緯20度26分 東経136度4分<5年P16> 【写真】日本の東のはし、南鳥島 北緯24度17分 東経153度59分<5年P17> 【資料】日本の国土のはし<5年P16、17> 【本文】「日本は、南北はおよそ北緯20度から北緯46度まで、東西はおよそ東経122度から164度までのはんばいに広がっています。」<5年P16> 【本文】「日本は、北海道・本州・四国・九州の四つの大きな島を中心に、およそ7000もの島々からなり立っています。それらの島々は、北東から南西の方向に弓のような形にならんでいて、北のはしの択捉島から西のはしとの与那国島までのきよりは、約3300kmにもなります。」<5年P17> 【説明】領土「なお、領海の外側には、魚などの水産資源や天然ガス・石油などの鉱山資源を自分の国だけで利用できる、排他的経済水域という海のはんばいがあります。」<5年P17> 【本文】「日本は、海に囲まれた島国だね。北のはしの択捉島から西のはしとの与那国島までの直線きよりは、約3300kmにもなるよ。」<5年P19> 【資料】沖縄県の位置「与那国島」<5年P32> 【本文】「鹿児島市からは約600kmもはなれていて、日本の西のはしとの与那国島があるよ。」<5年P32> 「日本のあゆみ」 【資料】日本の領土・領海・領空と排他的経済水域<6年P224> 【説明】排他的経済水域「領海の外側にある水域で、領土の海岸線から200海里(約370km)以内と定められています。沿岸国はその水域にある資源を自分の国だけで利用することができます。」<6年P224> 【本文】「国の領土・領海・領空を定めるといことは、国民の生活にもいきよするたいせつなことです。日本の領土である北方領土や竹島の問題解決に向け、日本政府は慎重に対応しています。」<6年P224></p>

「別紙2-2」 【国旗・国歌の扱い 発行者 東書】 (小学校 社会)

学年	国旗・国歌に関する記述	外国の国旗に関する記述
第3学年	<p>「はたらく人とわたしたちのくらし」 【資料】外国から「日本」<P77> 【説明】国旗「国旗は、国を表すめじです。その国の人々のねがいや気持ちがかこめられています。」<P77></p>	<p>「はたらく人とわたしたちのくらし」 【資料】外国から「中国・ニューゼーランド・メキシコ・アメリカ」<P77></p>
第4学年	<p>「特色ある地いきと人々のくらし」 【資料】仙台市と交流している都市と、その国・国旗「国旗は、国を表す目印で、その国の人々の願いや気持ちがかこめられています。国と国が交流するときには、おたがいの国旗をそんちようすることが大切です。」<P142></p>	<p>「特色ある地いきと人々のくらし」 【資料】仙台市と交流している都市と、その国・国旗「フランス、フィンランド、ペラルーシ、韓国、アメリカ、中国、メキシコ」<P142> 【資料】しおりさんたちがつくった4コマCM<P147></p>
第5学年	<p>「わたしたちの国土」 【説明】国旗「日本の国旗は、白地に太陽が赤くかがやいている様子を表しています。どの国の国旗にも大切な意味や由来があり、自国はもちろん、ほかの国の国旗も大切にすることが必要です。」<P10> 【資料】世界地図<上P10・11> 【資料】国土の広がりともわりの国々「日本」<上P12></p>	<p>「わたしたちの国土」 【資料】世界地図「フランス・ドイツ・ロシア・中華人民共和国・大韓民国・アメリカ合衆国・カナダ・イギリス・エジプト・南アフリカ共和国・トルコ・サウジアラビア王国・インド・オーストラリア・ニューゼーランド・アルゼンチン共和国・ブラジル」<P10～11> 【資料】国土の広がりともわりの国々「モンゴル・朝鮮民主主義人民共和国・フィリピン」<P12></p>
第6学年	<p>「世界の中の日本」 【コラム】国旗と国歌「世界の国々は、それぞれの国旗と国歌をもっており、国民のまとまりのしるし」として大切にしています。また、国どうしの交際では、おたがいの国の国旗と国歌に敬意を表し、友好を深めるために役立っています。日本では、明治時代から使われ、慣れ親しまれてきた日の丸(日章旗)と君が代を、それぞれ国旗、国歌とすることが法律で定められています。」<政治・国際編P105> 【写真】太平洋を横断する海臨丸「外国の港に入る船は、自分の国の国旗をかかげます。幕末に、太平洋を横断した江戸幕府の軍艦威臨丸も、日の丸をかかげていました。」<政治・国際編P105> 【写真】君が代の楽譜(今の形になる前の楽譜)<政治・国際編P105></p>	<p>「世界の中の日本」 【資料】アメリカ合衆国「赤と白の横線は独立したときの13州、星は現在の州の数(50州)を表しています。」、中華人民共和国「大きな星は中国共産党、小さな星は労働者、農民などの国民を表しています。」、フランス「白は国王、青と赤はパリ市民を表してつくられた。3色の組み合わせはトリコロールと呼ばれ、現在まで引きつがれています。」、ブラジル「緑は林業と農業、黄は鉱業、27個の星は首都と26州を表しています。帯には『秩序と発展』と書かれています。」<政治・国際編P64> 【写真】古い建物が残る路地(フートン)<政治・国際編P72> 【写真】若者が集まるペギンのシヤンタン地区の様子<政治・国際編P76> 【写真】いろいろな国のレストランが集まっている、パリのエジエツト通り<政治・国際編P80> 【写真】国際交流フェスティバルの様子<政治・国際編P90> 【写真】国際連合の本部<政治・国際編P98> 【写真】オリンピックでかかげられる各国の国旗「表彰式では、入賞した選手の国の国旗をかかけたり、国歌を演奏したりします。」<政治・国際編P105> 【コラム】国旗と国歌「国旗や国歌は、その国の成り立ちと深い関係があります。世界の国々の中には、言葉や習慣、宗教などのちがう民族がいつしよになつてつくっている国もあり、国旗や国歌は、民族どうしの結びつきの『しるし』となつています。また、多くの民族で成り立っている国から、それぞれの民族が新しい国として独立したときには、自分たちの国旗や国歌をつくります。ほかの国に支配されてきた歴史をもつ地域の人々は、独立を勝ち取ったほこりと自信を、国旗や国歌に表し、自分たちの国を世界に向けて発信しています。」<政治・国際編P105> 【説明】国旗と国歌<政治・国際編P105> 「中学校に向けて」 【写真】国際連合(国連)本部の前に並ぶ加盟国の国旗<政治・国際編P111></p>

「別紙2-2」 【国旗・国歌の扱い 発行者 教出】 (小学校 社会)

学年	国旗・国歌に関する記述	外国の国旗に関する記述
第3学年	<p>「はたらく人とわたしたちのくらし」 【資料】外国から仕入れた食品の産地「日本」<P61> 【本文】「国旗には、その国をきずいてきた人々の思いやほこりなどがこめられています。」<P61> 【本文】「どの国の国旗も大切にされているよ。」<P61> 【資料】外国の原料の仕入れ先「日本」<P79></p>	<p>「はたらく人とわたしたちのくらし」 【資料】外国から仕入れた食品の産地「イタリア、モーリタリア、中国、オーストラリア、ブラジル アメリカ」<P61> 【資料】外国の原料の仕入れ先「カナダ、ニュージーランド、アメリカ」<P79> 【資料】にまつあの行き先「アメリカ、オーストラリア、大韓民国」<P91></p>
第4学年	<p>「わたしたちの県のまちづくり」 【資料】福岡市の姉妹都市や友好都市 <P205> 【説明】国旗「国旗は、その国を表す印として使われる旗のことで、その国をきずいてきた人々の思いやほこりなどがこめられています。どの国の国旗も、大切に扱われてはなりません。」<P205></p>	<p>「わたしたちの県のまちづくり」 【資料】福岡市の姉妹都市や友好都市「フランス、ミャンマー、マレーシア、中華人民共和国、大韓民国、ニュージーランド、アメリカ合衆国」<P205></p>
第5学年	<p>「日本の国土とわたしたちのくらし」 【資料】世界の国々 <P10> 【資料】世界の国々 <P11> 【説明】国旗「国旗は、それぞれ別の国を表すしるしです。どの国旗にも、その国の歴史や人々の思いがこめられています。日本の国旗(日章旗)は、白地に赤い丸が入っています。これは、太陽がかがやく様子を表しているといわれています。日本の国旗も他の国の国旗も、大切に扱っていきましょう。」<P15></p>	<p>「日本の国土とわたしたちのくらし」 【資料】世界の国々「イギリス、ロシア連邦、フランス、ドイツ、エジプト、中華人民共和国(中国)、ガーナ、サウジアラビア、インド、タイ、オーストラリア、南アフリカ共和国」<P10> 【イラスト】世界の国々「カナダ、アメリカ合衆国、メキシコ、ペルー、ブラジル、アルゼンチン、ニュージーランド」<P11> 【資料】日本の国土とその周り(ロシア連邦、モンゴル国、朝鮮民主主義人民共和国、大韓民国、中華人民共和国、フィリピン共和国) <P14></p>
第6学年	<p>「世界の中の日本」 【資料】威臨丸 <P239> 【写真】オリンピックでかかげられる国旗 <P239> 【コラム】国旗と国歌「世界のどの国にも、国旗や国歌がこめられており、その国を象徴するものを築いてきた人々の理想や文化、ほこりなどがこめられており、その国を象徴するものとして、大切にされています。日本の日章旗(日の丸)は、江戸時代の末、外国の船との区別をはっきりさせるため、幕府が日本船の船印として決めたものです。明治政府も日本の商船旗と定め、やがて国旗としてあつかわれるようになりました。君が代は、平安時代につくられた和歌をもとにして明治時代に今日のようになつて決まりました。君が代には、日本の国がいつまでも繁栄し続け、平和であることを願う気持ちがこめられています。日の丸と君が代は、1999(平成11)年に、それぞれ日本の国旗、国歌として法律で定められました。それぞれ、敬意をはらってあつかうことが大切です。」<P239> 【写真】サッカーのワールドカップをテレビで観戦する日系ブラジル人 <P257></p>	<p>「とも生きる暮らしと政治」 【写真】冬季オリンピック札幌大会 <P59> 「世界の中の日本」 【資料】「イタリア、ロシア、ベトナム、インド、ケニア、オーストラリア、カナダ、ペルー」<P238・239> 【説明】「アメリカ合衆国」赤と白のしま模様は国が独立したときの13の州を表し、星の数は現在の州の数を示しています。」<P242> 【写真】「忠誠のちかい」毎朝、国旗に向かつて『忠誠のちかい』を行います。多民族国家のアメリカで、心を一つにするための日課です。」<P247> 【説明】「中華人民共和国」大きな星は、中国を統治している政党を、周りを囲む小さな星は、団結する国民を表しています。」<P248> 【説明】「ブラジル連邦共和国」緑色は森林、黄色は鉱物を表しています。白い帯には「秩序と進歩」と書かれています。」<P254> 【写真】「サッカーのワールドカップで優勝したブラジル代表の選手たち」<P257> 【説明】「サウジアラビア王国」緑は、イスラム教の経典の言葉がアラブ語で書かれています。」<P260> 【写真】「建国記念日を過ごすダナさん」<P264> 【写真】「フットサル大会に参加した小学生」<P268> 【説明】「大韓民国」赤と青の円は、「すべてのものは対立する二つが一つとなり調和する。」という考え方を表しています。<P270></p>

「別紙 2-2」 【国旗・国歌の扱い 発行者 日文】 (小学校 社会)

学年	国旗・国歌に関する記述	外国の国旗に関する記述
第3学年	<p>「わたしたちのくらしとまちではたくさんひと」 【説明】国旗「その国をあらわす旗のこと。それぞれの国には国旗があり、たいせつにされています。日本の国旗は、日章旗(日の丸)とよばれています。」<P89> 「市のようにくらしのうつりかわり」 【写真】鉄道が通ったところの小学校のようす <P136></p>	<p>「わたしたちのくらしとまちではたくさんひと」 【本文】「産地が外国のものは、その国の国旗も調べました。」(P88) 【資料】野菜やくだもの産地マップ「フィリピン・南アフリカ共和国・タイ・アメリカ合衆国・エクアドル・ブラジル・ニュージーランド・チリ」(P89)</p>
第4学年	<p>「わたしたちの住んでいる県」 【写真】イングリッシュキャンプ <P198> 【資料】岡山県と倉敷市が姉妹友好都市の関係をつなぐ地いき <P199> 【説明】国旗「国旗は、その国をあらわすしるしとして使われる旗です。世界のどの国にも国旗があり、人々は、自分の国の国旗をほこりにして、おたがいにたいせつにしています。日本の国旗は日章旗(日の丸)です。」<P199> 【本文】「岡山県は、オーストラリアや中国などと交流しているね。どの国にも国旗があるよ。」<P199></p>	<p>「わたしたちの住んでいる県」 【資料】岡山県と倉敷市が姉妹友好都市の関係をつなぐ地いき「オーストラリア・インド・中華人民共和国・大韓民国・オーストラリア・ニュージーランド・アメリカ合衆国」<P199></p>
第5学年	<p>「日本の国土と人々のくらし」 【資料】世界地図 <P14・15> 【説明】国旗「国旗は、その国の象徴として使われています。また、その国のなりたちや理想がこめられています。自分の国の国旗だけでなく、外国の国旗も尊重することがたいせつです。」<P15></p>	<p>「日本の国土と人々のくらし」 【資料】世界地図「フランス共和国、ドイツ連邦共和国、イタリア共和国、エジプト・アラブ共和国、南アフリカ共和国、サウジアラビア王国、ロシア連邦、インド共和国、中華人民共和国、ベトナム社会主義共和国、大韓民国、オーストラリア連邦、フィリピン共和国、カナダ、アメリカ合衆国、ペルー共和国、ブラジル連邦共和国」<P14・15></p>
第6学年	<p>「世界のなかの日本とわたしたち」 【資料】日本の国旗 <P252> 【本文】「オリンピックの表しよう式では、競技に優勝した選手の国の国旗をあげ、国歌を演奏して、選手の健とうをたたえます。どの国でも、国旗や国歌は、その国の文化や歴史をあらわし、独立国のしるしとしてたいせつにあつかわれます。独立国がたいせつに尊重し合うことと同じように、その象徴である国旗・国歌を尊重し合うことがたいせつです。」<P254> 【コラム】日章旗(日の丸)と君が代「日の丸は江戸幕府の船印として使用されるようになり、江戸時代の終わりころには、外国からも日本の国旗として認められていたものと考えられます。また、君が代は、平安時代によまれた和歌をもとにして、明治時代につくられ、国の儀式などで歌われるようになりました。その後、日の丸と君が代は、日本の国旗・国歌として慣れ親しまれてきました。そして、1999(平成11)年には、日章旗(日の丸)が日本の国旗であり、日本が平和で豊かであることを願った君が代が日本の国歌であると、法律で定められました。」<P255> 【写真】東京2020オリンピック大会の表しよう式 <P255> 【写真】地球環境について話し合う国際会議 <P264></p>	<p>「世界のなかの日本とわたしたち」 【資料】アメリカ合衆国の基本データ <P236> 【写真】「忠誠の誓い」<P238> 【コラム】キャサリン先生の話「そこで、民族はちがっても人々の心をつよいうこととを国旗に向かかって誓うのです。」<P238> 【資料】中華人民共和国の基本データ <P240> 【コラム】お父さんの会社にいる中国の人の話「夏用、冬用の制服があり、毎週月曜日の国旗掲揚集会には、必ず制服を着て参加します。首にまいた赤いスカーフは、国旗をあらわしています。」<P242> 【写真】授業のようす <P242> 【資料】ブラジル連邦共和国の基本データ <P244> 【資料】大韓民国の基本データ <P248> 【資料】アメリカ・中国、ブラジル、韓国 <P252> 【写真】東京2020オリンピック大会の表しよう式 <P255> 【写真】国連本部(アメリカ・ニューヨーク) <P266> 【写真】世界のウチナーンチュ大会 <P272></p>

発行者名	「教材名」 【掲載方法】 記述の概要(学年以上/下 掲載ページ)
東書	<p>わたしたちの国土」</p> <p>【写真】エイサー―地域には、エイサーとよばれるおどりが今も残っています。』<5年上P54></p> <p>【写真】琉球舞踊とよばれる伝統的なおどりと三線<5年上P54></p> <p>【本文】沖縄県の人々は、ふるさとを愛する気持ちをわすれず、自分たちの文化にほこりをもって生きてきました。くらし方が変わった今でも、人々は自分たちの文化を大切に守り、次の世代に引き継いでいきます。』<5年上P54></p> <p>【写真】アイヌ民族のおどり<5年上P62></p> <p>【本文】アイヌの人々は、身近にある木や草でつくったチセとよばれる家に住み、魚や動物、山菜をとったり、あわなどのざっこを育てたりしながら、豊かな自然の中でくらししていました。自然の恵みに感謝しながら、すべてのものや生き物に、カムイ(神)を感じてくらししています。』<5年上P62></p> <p>【日本の歴史】</p> <p>【コラム】神話に書かれた国の成り立ち「8世紀ごろ、「古事記」や「日本書紀」といった書物が天皇の命令でつくられました。これらには、大昔のこととして、天からこの国土に下った神々の子孫が、大和地方に入って国をつくり、やがて日本の各地を統一していった話などがのっています。ヤマトタケルの話もその一つで、複数の人物の事業を一人の人物の話としてあらわしたのではありませんかと考えられています。また、各地の人々の生活の様子や地域の自然などを記した「風土記」も8世紀ごろにつくられました。現在は「出雲国(現在の島根県)風土記」の内容だけが、完全な形で伝えられています。』<6年歴史編P21></p> <p>【説明】神話の中のヤマトタケル「ヤマトタケル」は、武勇にすぐれた皇子でした。ヤマトタケルは、天皇の命令を受けて九州へ行って、クマンを平らげ、休む間もなく、東日本のエミシをおしました。ヤマトタケルは、広い野原で焼きうちにあたり、あれる海とたつたかたつたりして、苦勞しながら征服を進めました。ところが、都へ帰る途中、病気でなくなりました。すると、ヤマトタケルのたましいは、大きな白鳥に生まれ変わって、都の方へ飛んでいきました。』<6年歴史編P21></p>
教出	<p>【わたしたちの夏のまちづくり】</p> <p>【写真】曲水の宴<4年生P179></p> <p>【コラム】大宰府天満宮の味酒さんの話<4年生P179></p> <p>【日本の国土とわたしたちのくらし】</p> <p>【本文】自然とともに生きる人々のくらし<5年P58～59></p> <p>【本文】アイヌの人々は、役に立つもの、人の力ではどうすることもできないものに「カムイ」という名をつけてよびます。火や水などのカムイ、動物や植物のカムイ、道具のカムイなど、くらしを支えてくれた皆さんのカムイがいると考えるのです。カムイへの感謝の気持ちや願いごとは、「カムイノミ」という儀式を通して伝えます。』<5年P59></p> <p>【写真】オリンピックの会場でひろうされた、アイヌの人たちの伝統的なおどり<5年P59></p> <p>【日本の歴史】</p> <p>【コラム】「古事記」と「日本書紀」天皇中心の国のしくみが整った8世紀の初め、朝廷は、日本の成り立ちを国の内外に示すため、「古事記」や「日本書紀」という歴史の本を完成させました。この中には、ヤマトタケルの話のように、国が統一されていく物語も収められています。これは神話といわれ、すべてが真実ではありませんが、国の成り立ちや、この時代の人々の考えを知る手がかりになります。』<6年生P91></p> <p>【資料】ヤマトタケルの話「ヤマトタケルは、天皇である父の命令で九州におもむき、クマンをうちとりしました。次に関東のエミシを従えるように命じられました。ヤマトタケルは、その途中で、広い野原で焼きうちにあたり、荒れる海とたつたかたつたりするよう困難にあいながらも、関東を征服しました。しかし、その帰りに、病気でなくなりました。ヤマトタケルは、大きな白鳥になって、大和のほうへ飛んでいったということです。』<6年生P91></p>
日文	<p>わたしたちの住んでいる県」</p> <p>【コラム】岡山市役所の林原さんの話<4年P189></p> <p>【写真】鳴釜神事<4年P189></p> <p>【コラム】古くから神話の里として有名な高千穂町<4年P203></p> <p>【日本の国土と人々のくらし】</p> <p>【写真】組踊<5年P38></p> <p>【日本のあゆみ】</p> <p>【コラム】神話などに書かれた国の成り立ちと人々の生活のようす「8世紀のはじめに天皇の命令によりつくられた『古事記』や『日本書紀』という書物には、神話が書かれています。また、地方の王や豪族に従い、くらししていた人々のようすや、地方の自然などについて書かれた『風土記』と呼ばれる書物も伝わっています。』『日本書紀』のヤマトタケルノミコトの話「昔、ヤマトタケルノミコトという武勇にすぐれた皇子がいました。皇子は、朝廷に従わない豪族をおおせという天皇の命令を受けました。皇子は、苦勞しながら各地の豪族をたおしていきまし。しかし、都へ帰るとちゆうで病氣になり、都がある大和の美しい景色を思い浮かべながら、短い一生を終えたということです。』『出雲国風土記』「出雲は現在の島根県です。『風土記』には、地名や山、川の名前の由来や、その土地にまつわる話などが書かれています。』<6年P81></p>

「別紙2-4」 【北朝鮮による拉致問題の扱い】（小学校 社会）

発行者名	「教材名」	【掲載方法】	記述の概要(学年 掲載ページ)
東書	「日本の歴史」	【本文】 【写真】	まわりの国と日本「朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)とは、2002年に初の首脳会談が行われました。しかし、北朝鮮が日本人を無理やり連れ去った拉致問題や核兵器の開発などの問題が残されています。」<6年歴史編P153> 北朝鮮から帰国した拉致被害者<6年歴史編P153>
教出	「日本の歴史」	【コラム】 【写真】	韓国・北朝鮮と日本「2002(平成14)年に実現した日朝首脳会談で、北朝鮮は、過去に日本人を無理やり連れ去ったという事実を認めました。こうした拉致の問題の他に、北朝鮮との間には、核兵器とミサイルの開発の問題があります。日本は、これらの問題の解決に向けて、国際社会へのはたらきかけを行っています。」<6年P230> 日本と北朝鮮の代表との話し合い<6年P230>
日文	「日本のあゆみ」	【本文】 【写真】	「2002(平成14)年には、日本と北朝鮮との会議のなかで、北朝鮮側が、日本人を北朝鮮に無理やり連れ去っていたことを認めました。現在も、この問題の解決に向けた努力が続けられています。」<6年P225> 日本と北朝鮮の代表者による会議(2002年ピョンヤン)<6年P225>

発行者	防災や、自然災害に関する記述	関係機関の役割(自衛隊、警察、消防等)	その他の機関の役割(JICA、NGO等)
<p>第3学年</p>	<p>【くらしを守る】 【写真】防災訓練＜P89＞ 【本文】「わたしの町内会では、毎年防災訓練を行っているよ。」＜P89＞ 【写真】消火せんをさがす＜P98＞ 【資料】まちの中にある消防のしせつをしましめた地図＜P98＞ 【コラム】消防士の河合さんの話＜P88＞ 【写真】ひなん場所にもなる公園＜P99＞ 【写真】学校のしよ（倉室）にある自動火災ほろせつびの受しんばん＜P99＞ 【説明】消防について定めた国のきまり＜P99＞ 【写真】住たく用火災けいほうき＜P99＞ 【説明】消防のしせつ＜P99＞ 【本文】「学校では、火事などにそなえて、ひなん訓練もしているよね。」、「わたしの家にも、住たく用火災けいほうきが ついていました。」、「たぐさんの人がひなんできる公園もあるんだね。わたしたちの学校もひなん場所になっている ね。」、「消火活動やひなんのためのくふうがいろいろある場所にあるんだね。」＜P99＞ 【本文】「地いきの人たちが集まって、消防団として活動しているんだね。」、「秋の火災予防運動の期間には、少年消防 クラブに入っている友だちが、消防団の人と火災予防のよびかけをしているよ。」、「市には家の多いところや山の多い ところなど、場所によって違いがあります。地いきごとに訓練の内ようをくふうしているそうです。」、「消防団以外の地い きの人とも、自分たちのまちを守るために消火訓練や防火に取り組んでいるんだね。」＜P101＞ 【本文】「火事が起きたときにそなえて、地いきの人もふだんから取り組んでいることがわかったよ。」＜P103＞</p>	<p>【くらしを守る】 【写真】消火活動の様子＜P88＞ 【資料】火事が起きたときの様子＜P91＞ 【説明】協力が＜P91＞ 【資料】浜松市の消防しよ＜P92＞ 【資料】火事の原因へつのかく＜P92＞ 【資料】消防自動車が出動するまで＜P92＞ 【本文】「消防しよがいくつもあるのは、広い浜松市を守るためだと思うよ。」＜P92＞ 【写真】消防しよ＜P94＞ 【写真】消防しよの人に話を聞く＜P94＞ 【コラム】消防しよの山田さんの話＜P94＞ 【写真】消火の訓練＜P94＞ 【コラム】消防服について＜P95＞ 【写真】防火服を着た消防士＜P95＞ 【コラム】さんご時間について＜P95＞ 【資料】消防士のきんむす＜P95＞ 【写真】救助訓練＜P95＞ 【コラム】消防自動車について＜P95＞ 【写真】消防自動車＜P95＞ 【写真】消防自動車の点検＜P95＞ 【説明】訓練・点検＜P95＞ 【資料】火事が起きたら＜P96～97＞ 【写真】救急救命士＜P96＞ 【本文】「通信指令室の人は、どこで火事が起きたのかを正しく聞いているよ。」、「すぐに、消防しよ以外のところにもれんらく をしているね。」、「火事が起きたとき、ガス会社や電力会社、水運局など、さまざまな人が活やくしているんだね。」＜P96＞ 【コラム】通信指令室の伊藤さんの話＜P97＞ 【写真】消防ヘリコプター＜P97＞ 【説明】通信指令室＜P97＞ 【写真】消防団の車庫にある器具の点検＜P100＞ 【写真】地いきにある消防団＜P100＞ 【写真】消火訓練＜P100＞ 【コラム】消防団の小池さんの話＜P100＞ 【写真】地いき住民と会合の訓練＜P101＞ 【写真】少年消防クラブの広ほう活動の様子＜P101＞ 【写真】消火きの使い方を教える＜P101＞ 【説明】消防団＜P101＞ 【本文】「消防士の人たちは、日ごろから訓練をして、火事が起きたときのそなえをしています。」、「火事が起きたとき、さま ざまな人が協力していることがわかったよ。」＜P102＞</p>	<p>その他の機関の役割(JICA、NGO等) 記載なし</p>
第4学年	【別紙2(d)]に記載		
第5学年	【別紙2(i)]に記載		
第6学年	【別紙2(k)(n)]に記載		

発行者	防災や、自然災害に関する記述	関係機関の役割(自衛隊、警察、消防等)	その他の機関の役割(JICA、NGO等) 記載なし
第3学年	<p>【地いきの安全を守る】 【写真】学校でのひなくんくんれんの様子<P96> 【本文】今日は学校で火事が起きたときにひなにひなにするための、くんれんの日です。<P96> 【写真】防火シャッターを調べる<P106> 【写真】消火栓を調べる<P106> 【写真】消火栓(発信音)<P106> 【写真】自動火災ほうちせつび(受信音)<P106> 【本文】消火器や消火栓は、どの階にも同じ場所においてあるよだね。<P106> 【写真】救助ぶくろ<P107> 【写真】救助ぶくろの箱を調べる<P107> 【写真】熱感知器<P107> 【写真】けむり感知器<P107> 【イラスト】学校の消防せつびのある場所<P107> 【本文】冬にもプールに水が入っているのは、火を消すのに使うためなんだ。」「消火栓や感知器が、職員室のせつびにながっているから、火事の場所がわかるね。」「<P107> 【写真】まちの消防せつびを調べる<P108> 【写真】消火栓を調べる<P108> 【資料】まらさんたちがまとめたまちの消防せつ<P108> 【本文】初期消火箱は、ホースなどを入れたものだよ。だから消火栓の近くにあるんだ。<P109> 【本文】学校と同じように、地いきにも消火のためのせつびが、整えられているんだね。」「<P109></p>	<p>地いきの安全を守る 【資料】横浜市の消防しよ、消防しゅつちよう所のある場所<P97> 【写真】消防しよのたてもの<P97> 【写真】出動する消防自動車<P97> 【本文】火事に気づいたら、すぐに先生に知らせて。119番に電話してもらだよ。<P97> 【写真】火事の現場で、消火にあたる消防士<P98> 【本文】ヘルメットをかぶった消防士の人が、火を消すためにホースで水をまいているよ。<P98> 【写真】消防しよの人へのインタビュー<P100> 【写真】防火服の体けん<P100> 【写真】防スボンと防火ぐつつのセットを調べる<P100> 【写真】はしご車の体けん<P100> 【コラム】消防しよの山本さんの話<P100> 【資料】出動までの1分間<P101> 【イラスト】消防自動車(ポンプ車)のしくみ<P101> 【資料】防火服のひみつ<P101> 【資料】119番のしくみ<P102~103> 【本文】119番の電話は通信指令室につながって、現場に近い消防しよにれんらくがいよ。」「<P102> 水道局や電力会社、ガス会社なども協力しているんだね。」「<P102> 【コラム】通信指令室の安藤さんの話<P103> 【写真】ロープを使った救助くんれん<P104> 【写真】ロープを使った救助くんれん<P104> 【コラム】消防しよの堤さんの話<P104> 【写真】消火栓の点検<P105> 【写真】はしご車のくんれん<P105> 【写真】道鳥の点検<P105> 【写真】小学生のけむり体けん<P105> 【資料】消防しよではたらく人の仕事の時間わり<P105> 【本文】交たいしながらたらこと、24時間、消火や救助にそなえているんだね。」「<P105> 【写真】消防団員と道具をおくそう<P108> 【本文】火事のとぎ、消防団などの地いきの人も消火栓とホースをつないで、火を消すんだね。」「<P108> 【写真】消防団の道具を点けんする<P109> 【写真】消防団の放水くんれん<P109> 【写真】地いきの人と協力したくんれん<P109> 【コラム】消防団の鈴木さんの話<P109> 【本文】消防しよが中心となって、けいきつしよや地いきの人たちなどと協力し、火事からまちを守っていることがわかるね。」「<P110></p>	
第4学年	【別紙2(d)】に記載		
第5学年	【別紙2(j)】に記載		
第6学年	【別紙2(k)】に記載		

発行者	防災や、自然災害に関する記述	関係機関の役割(自衛隊、警察、消防等)	その他の機関の役割(JICA、NGO等)
第3学年	<p>【安全なくらしを守る】</p> <p>【資料】学校の消ぼうしをつき＜P106＞</p> <p>【写真】消火器と消火せん＜P108＞</p> <p>【写真】火災のぼうしをつき＜P106＞</p> <p>【写真】ぼうしと火びら＜P106＞</p> <p>【写真】しよく倉庫＜P106＞</p> <p>【写真】プール＜P106＞</p> <p>【写真】ひなんすゝとどきのやくそく＜P106＞</p> <p>【本文】「学校や地いぎには、いろいろな消ぼうしをつき＜P107＞</p> <p>【資料】消火せん＜P107＞</p> <p>【写真】ぼうしと水そう＜P107＞</p> <p>【写真】ひなん場所になつてゐる学校＜P107＞</p> <p>【資料】消ぼうしについて定めた国のきまり＜P107＞</p> <p>【本文】「学校に消ぼうしをつきをぶくことは、国のきまりで定められてゐるのだよ。」、「家が多いところは、消火せんがたふくまがあつたよ。」、「消火せんやぼうしと水そうが多いと、消火活動がしやすいよな。」、「わたしたちの学校が、地いぎの人たちのひなん場所になつてゐるんだね。」＜P107＞</p>	<p>【安全なくらしを守る】</p> <p>【写真】火事の様子＜P94＞</p> <p>【資料】火事現場の様子＜P96＞</p> <p>【資料】湖南広いき消ぼうし局が持つてゐる四つの市でおこつた火事について＜P97＞</p> <p>【資料】火事がもたらした被害の様子＜P97＞</p> <p>【写真】消ぼうしの見学＜P98＞</p> <p>【資料】りごさんがまとめたいろいろな消ぼうし自動車＜P98＞</p> <p>【写真】出動までの1分間＜P99＞</p> <p>【写真】出動指令を出す＜P99＞</p> <p>【写真】出動指令を聞く＜P99＞</p> <p>【写真】指令書を受け取る＜P99＞</p> <p>【写真】ぼうしと服を着る＜P99＞</p> <p>【写真】場所をかくにんする＜P99＞</p> <p>【写真】消ぼうし自動車に乗る＜P99＞</p> <p>【写真】消ぼうし自動車の運員のけん＜P99＞</p> <p>【写真】消ぼうし自動車のようす＜P99＞</p> <p>【本文】「ヘルメットやぼうし、火服などの運員が、ロッカーにきちんとならべられていたね。」＜P99＞</p> <p>【資料】119番のしくみ＜P100～101＞</p> <p>【本文】「通信指令室ではたらく田中さんの話＜P100＞</p> <p>【説明】通信指令室＜P100＞</p> <p>【写真】消ぼうし自動車からのえいそうを見る＜P101＞</p> <p>【資料】りごさんがまとめたこと＜P101＞</p> <p>【本文】「消ぼうし以外のいろいろなところにこれならくをして、協力してゐるんだね。」＜P101＞</p> <p>【資料】消ぼうしよ以外のいろいろなところにこれならくをして、協力してゐるんだね。」＜P101＞</p> <p>【写真】引きつぎ＜P102＞</p> <p>【写真】車のけんけん＜P102＞</p> <p>【写真】消火せんでのけんけん＜P102＞</p> <p>【写真】マーンティング＜P102＞</p> <p>【写真】ぼうしと火しろう＜P103＞</p> <p>【写真】救助訓練＜P103＞</p> <p>【写真】トローニング＜P103＞</p> <p>【写真】かみん＜P103＞</p> <p>【説明】「ひぼん」と「休み」＜P103＞</p> <p>【写真】ぼうしと火しろう＜P103＞</p> <p>【本文】消ぼうし隊員のけんけんの話＜P103＞</p> <p>【説明】救急隊員士の話＜P103＞</p> <p>【本文】消ぼうし隊員の伊藤さんの話＜P103＞</p> <p>【資料】琵琶湖での救助の様子＜P104＞</p> <p>【写真】高速道路への出動の様子＜P104＞</p> <p>【資料】湖南広いき消ぼうし局の消ぼうしよや出ちよ場所の出動するはんい＜P104＞</p> <p>【写真】水なん救助とゴムボート＜P104＞</p> <p>【本文】「広い琵琶湖での事故のときは、ボートを使って事故の現場まで行くよだね。」＜P104＞</p> <p>【本文】水なん救助隊員の中道さんからのメール＜P105＞</p> <p>【本文】さいがいでの救助にあつた消ぼうし隊員＜P105＞</p> <p>【写真】湖南広いき消ぼうし局の隊員の救助活動の様子(岡山県倉敷市)＜P105＞</p> <p>【本文】「琵琶湖や高速道路の事故では、近くの消ぼうし本部などと協力してゐるんだね。」＜P105＞</p> <p>【写真】消ぼうし活動をおこなう消ぼうし隊員＜P105＞</p> <p>【写真】ぼうしをつきを説明する女性消ぼうし隊員＜P108＞</p> <p>【本文】消ぼうし隊員の中村さんの話＜P108＞</p> <p>【本文】女性消ぼうし隊員の片岡さんの話＜P108＞</p> <p>【説明】消ぼうし＜P109＞</p> <p>【本文】「火事がおこつたときには、地いぎのいろいろな人が協力してゐるんだね。」、「消ぼうし隊員では、自分たちの地いぎは自分たちで守ることを、昔からたいせつにしていることわかつたよ。」＜P109＞</p>	<p>その他の機関の役割(JICA、NGO等)</p> <p>記載なし</p>
第4学年	【別紙2(d)]に記載		
第5学年	【別紙2(i)]に記載		
第6学年	【別紙2(k)(n)]に記載		

学年	一次エネルギーや再生可能エネルギーに関する記述	そのうち、原子力発電に関する記述
第3学年	<p>記載なし</p>	<p>記載なし</p>
第4学年	<p>「住みよいくらしをつくる」 【資料】日本の発電量<P50> 【写真】火力発電「日本の発電の中心になっている。燃料のほとんどを輸入にたよっている。地球温暖化の原いんの一つとされている二酸化炭素を多く出す。」<P50> 【写真】水力発電「水が流れる力を使って発電する。燃料を使わず、発電のときに二酸化炭素などを出さない。」<P50> 【写真】太陽光発電「太陽の光を利用して発電します。広い土地や家の屋根などに、パネルを置いて発電します。」<P51> 【写真】風力発電「風の方で発電します。海の上でも、大きな風車を立てて発電します。」<P51> 【写真】地熱発電「地熱によって生まれる水じょう気を利用して発電します。」<P51> 【写真】バイオマス発電「木のくずやもえるごみなどを燃やして、電気をつくります。」<P51> 【本文】日本はしげんの少ない国なので、燃料を使わずに再生可能エネルギーで発電することがこれからは大切だね。」<P51> 【説明】再生可能エネルギー<P51> 【資料】再生可能エネルギーの電力量の変化<P51> 【説明】都市ガス<P52> 【本文】どちらも化石燃料とよばれるしげんで、かぎりがあるので、大切にに使わないといけないね。」<P53> 【写真】温水プール「こみをやるときに出る熱は、温水プールや発電に利用されます。」<P60></p>	<p>「住みよいくらしをつくる」 【写真】原子力発電「ウラン燃料を利用して、発生する熱で発電する。ウランは輸入にたよっている。事故が起きると長く大ききながいが出る。」<P50></p>
第5学年	<p>「わたしたちの生活と工業生産」 【コラム】自動車会社で開発をする田中さんの話<下P20> 【本文】燃料電池自動車 水素と酸素から電気をつくり、水だけを排出するので、環境にとってもやさしいです。電気自動車 電気でモーターを回すため、走行時に二酸化炭素が出ません。エネルギー 費用も安くみます。」<下P21> 【資料】日本での石油の使われ方のうちわけて石油製品の種類<下P26> 【本文】自動車の燃料や発電など、ふだんのくらしに石油は欠かせないね。」「石油は、使い道に合わせてガソリンや灯油などの石油製品に加工して利用されます。また、火力発電所では、石油を燃やしたときの熱を利用して、タービンというエンジンを動かし、電気をつくっています。」<下P26> 【写真】石油工場<下P27> 【コラム】和木町の石油工場の山下さんの話<下P27> 【本文】石油工場を中心に、石油製品を原料や燃料にする工場が集まっているところを、石油化学コンビナートといいます。」<下P27> 【資料】輸入量と国内生産量のわりあい<下P34> 【本文】資源が少ない日本は、石油をはじめとする燃料や原材料のほとんどを、輸入にたよっています。」<下P34> 【資料】主な輸送品の取りあつかい「種類のわりあいの変化<下P38> 【本文】日本が燃料としてたくさん輸入している石油や石炭などの使用は、地球温暖化の原因の一つと言われます。二酸化炭素を多く出します。」「太陽光発電や風力発電などの、新しいエネルギーの開発が進んでいるよ。」「日本では、世界との結びつきを大切にしながら、再生可能エネルギーの開発などの新たな取り組みを進めることが求められています。」<下P38> 「わたしたちの生活と環境」 【資料】木質バイオエネルギーへの活用「製材工場で出た木のくずは、木質バイオエネルギーをつくる会社にはん売し、数センチのチップにくだいた後、発電の燃料として活用されます。」<下P107> 【本文】木材をつくるときに出るくずは、すてずに発電の燃料としてはん売するようになっています。」<下P107></p>	<p>記載なし</p>
第6学年	<p>「日本の歴史」 【本文】鋼鉄・火力発電・石油精製などの重化学コンビナートがつかられ、各地の港が整備されていきました。」<歴史P149> 【本文】こうした大きな災害によって、防災やエネルギーの課題が明らかになる一方、地域のつながりの大切さが改めて注目されています。」<歴史P151> 「中学校に向けて」 【写真】大分県にある地熱発電所<政治・国際編P111></p>	<p>「わたしたちの生活と政治」 【コラム】原子力発電所事故からの復興「2011(平成23)年3月11日に起きた東日本大震災では、地震と津波に加えて、福島県にある原子力発電所の事故が大きな被害をもたらしました。地震と、その後の津波により、原子力発電所が爆発事故を起こし、大量の放射性物質がもれ出しました。」「政府は、放射性物質を取り除く除染作業を進めました。また、道路や水道などの生活を支える設備の復旧も進めました。」<政治・国際P55> 【写真】東日本大震災・原子力災害伝承館<政治・国際P55> 【資料】避難指示が出された区域<政治・国際P55> 【写真】福島第一原子力発電所<政治・国際P55></p>

学年	一次エネルギーや再生可能エネルギーに関する記述	そのうち、原子力発電に関する記述
第3学年	<p>「わたしたちの市のあゆみ」 【コラム】うつりかわる地域「太陽の光をりようして電気をつくる大きな発電所(メガソーラー)をつくりました。」<P158> 【写真】海ぞいのうめ立て地にあるメガソーラー<P158></p>	<p>記載なし</p>
第4学年	<p>健康なくらしとまちづくり」 【コラム】ダムと地域の人の話<P60> 【コラム】ダムと地域の人々の生活<P61> 【写真】燃料を運ぶ船<P72> 【写真】火力発電所・原子力発電所・ダム<P73> 【資料】ゆうまさんたちが使っている電気をつくるしせつの位置<P73> 【資料】火力発電の特ちょう<P74> 【資料】水力発電の特ちょう<P75> 【資料】発電機のしくみ<P75> 【資料】風力・地熱・太陽光発電の特ちょう<P77> 【資料】国内の1年間の総発電量<P77> 【コラム】ガス会社の人の話<P79></p>	<p>【コラム】原子力発電の特ちょう「ウラン燃料を利用して発生させた熱で発電する。少ない燃料で多くの電気をつくることができる。発電のときに二酸化炭素を出さない。燃料のほとんどを外国から買っている。燃料にかざりがあるといわれている。燃料やはいき物のあつかいがむずかし、安全のための十分なそなえが必要になる。事故などで有害な物質が放出されると、広いはんに長くいきようをおよぼすことがある。」<P75> 【コラム】原子力発電所の事故「2011(平成23)年3月に発生した東日本大震災で、原子力発電所の一つが事故を起こしました。この事故は、広いはんに人々のくらしに大きないきようをおよぼしています。また、この事故をきっかけに、国内の原子力発電所のすべてが検査のため運転を休止しました。その後、一部の原子力発電所では運転が再開されています。(2019年5月現在)」<P77></p>
第5学年	<p>「未来をつくり出す工業生産」 【写真】石油を運ぶタンカーと、石油基地<P145> 【写真】原油に熱を加え、蒸発させる施設<P145> 【写真】ガソリンをタンクローリーに積む<P145> 【資料】石油の加工の流れ<P145> 【資料】国内で使う原油にしめる輸入の割合<P147> 【本文】「原油は自動車の燃料になるガソリンや、部品に使われるプラスチックやゴムなどをつくるために、必要な原料です。」<P147> 【グラフ】主な燃料や原料の輸入の割合<P151> 【本文】「天然資源にめぐまれない日本では、燃料や原料の多くを輸入にたよっています。」<P152> 【資料】日本のエネルギー消費量の割合の変化<P172> 【写真】地熱発電所(鹿児島県指宿市)<P173> 【コラム】すていた物を生かす<P173> 「国土の自然とともに生きる」 【写真】木質バイオマス発電所(高知県高知市)<P231> 【写真】風力発電の風車<P241> 【コラム】次世代エネルギーパーク<P241></p>	<p>「未来をつくり出す工業生産」 【コラム】工業やくらしを支える資源・エネルギー「原油や石炭などの化石燃料を大量に燃やすと、多くのガスが排出され、地球温暖化や空気のよごれなど、環境に大きないきようをおよぼします。そこで、ガスを発生させず、より効率のよいエネルギーを使うことが考えられています。日本では、資源・エネルギーを輸入にたよらず確保するために、原子力の利用が進められてきました。しかし、原子力の利用では、使い終わった燃料をどのように処理するのかという問題や、事故が発生したときのいきようなども考えなければなりません。2011(平成23)年に発生した東日本大震災では、原子力発電所の一つが事故を起こし、今も広い地域で人々のくらしに大きないきようをおよぼしています。日本では、原子力のほかに、より安全性が高く、使いきる心配のないエネルギーの開発が進められています。」<P172></p>
第6学年	<p>「世界の中の日本」 【本文】「サウジアラビアは、日本が最も多くの石油を輸入している国です。石油はわたしたちの暮らしに欠かせない資源です。自動車のガソリンや火力発電所の燃料に使われるだけでなく、プラスチックや合成繊維、合成ゴムなどの原料としても使われています。」<P260> 【写真】学校の屋根に設けられた太陽光の発電パネル(宮崎県都城市)<P281></p>	<p>「ともに生きる暮らしと政治」 【本文】「この地震と津波の影響で、福島第一原子力発電所で事故が起り、有害な放射性物質が広い範囲に放出されて、多くの人々が避難をしなければならなくなりました。」<P50> 「世界の中の日本」 ・【写真】2011年に起こった原子力発電所の事故<P281></p>

学年	一次エネルギーや再生可能エネルギーに関する記述	そのうち、原子力発電に関する記述
第3学年 記載なし 「健康なくらしを守る仕事」 【コラム】福宗環境センターの係の人の話<P40> 【説明】資源<P41> 【写真】佐野清掃センター清掃工場が出た熱を利用している佐野植物公園<P41> 【説明】エネルギー<P41> 【本文】「また、下水をしよりするなかでできるどろをあたためると、ガスが発生します。このガスを利用して、発電をおこなっています。」<P51> 【資料】電気がつくられ、送られてくるまで<P73> 【コラム】電力会社の柴原さんの話<P73> 【資料】発電方法別の発電量のうつつり変わり<P73> 【写真】ひろとさんたちがつくったカード「火力発電・水力発電」<P74> 【写真】自然を生かしたいろいろな発電方法「太陽光発電・風力発電・地熱発電・波力発電」<P75> 【説明】再生可能エネルギー<P75> 【コラム】電力の自由化<P75> 【本文】「都市ガスの原料は天然ガス、LPガスの原料は石油です。」<P76> 【写真】ガスがわたしたちの家にとどくまで<P76> 「わたしたちの住んでいる県」 【写真】真庭バイオマス発電所<P185> 【写真】ペレット<P185> 【コラム】真庭市役所の道下さんの話<P185>	記載なし 「健康なくらしを守る仕事」 【資料】電気がつくられ、送られてくるまで「原子力発電所」<P73> 【資料】発電方法別の発電量のうつつり変わり<P73> 【写真】ひろとさんたちがつくったカード「原子力発電 ウランを燃料として、発電する。少ない燃料で大きな電力がえられる。地震がおきたときや事故がおこったときなどの危険性について、人々のあいだに不安がある。燃料やはいき物の取りあつかいがむずかしい。」<P74>	
第5学年 「日本の国土と人々のくらし」 【本文】「佐賀市は、『廃棄物であったものが、エネルギーや資源として価値を生み出しながら循環するまち』をめざしました。ちづくりを進めています。」<P66> 【資料】「バイオマス産業都市さが」のしくみ<P67> 「工業生産とわたしたちのくらし」 【本文】「ハイブリットカーや、家庭用の電源を使って電気をためて走るプラグインハイブリットカー、電気自動車が発売されているね。そのほかにも、天然ガス自動車、燃料電池自動車などの開発も進んでいるみたいだよ。」<P158> 【コラム】製鉄所の案内係の多田さんの話<P166> 【本文】「この製鉄所では、使用する水を90%再利用したり、鉄をつくるときに出了た熱やガスを使って発電をしたり、コークス炉の高温を利用してプラスチックごみを再生したりしています。」<P167> 【コラム】製油所の横山さんの話<P171> 【写真】トラックペレット<P171> 【コラム】エネルギーをむだなく使う取り組み<P171> 【資料】おもな原料・エネルギー資源の輸入先<P176> 【本文】「日本は資源が少なく、ほとんどの原料やエネルギー資源を輸入しています。」<P176> 【資料】おもな原料・エネルギー資源の輸入量と国内生産量のわりあい<P177>	「国土の環境を守る」 【本文】「地震のゆれや津波の被害を受けた福島第一原子力発電所では、原子炉がこわれ、放射性物質が広いはんに放出されました。」<P247> 【説明】放射性物質<P247>	
第6学年 「日本のあゆみ」 【本文】「1960(昭和35)年に政府は、国民所得増進計画を発表し、産業を発展させる政策を進めました。産業の各分野では、技術革新が進み、品質がよく安い製品が大量生産できるようふうを重ね、鉄鋼や自動車・石油化学などの重化学工業が発達しました。」<P220>	記載なし	

発行者名	「教材名」【掲載方法】 記述の概要(学年以上/下 掲載ページ)
東書	<p>「はたらく人とわたしたちのくらし」</p> <p>【写真】リサイクルコーナー<3年P81></p> <p>「水はどこから」</p> <p>【本文】「大切な水のために」<4年P48～49></p> <p>【資料】「くらしをささえる電氣」<4年P50～51></p> <p>【資料】「くらしをささえるガス」<4年P52～53></p> <p>「こみのしよりと利用」</p> <p>【本文】「こみの種類と分別」<4年P54～55></p> <p>【本文】「こみのゆえ」<4年P56～57></p> <p>【本文】「もやすときやもした後のくふう」<4年60～61></p> <p>【本文】「人々の協力でごみが生まれ変わる」<4年P62～63></p> <p>【本文】「こみしよりのうつり変わりと課題」<4年P64～65></p> <p>【本文】「こみのしよりについてまとめる」<4年P66～67></p> <p>【本文】「自分たちができることを考える」<4年P68～69></p> <p>【資料】下水のしよりと利用<4年P70～71></p> <p>「水産業のさかんな地域－鹿児島県－」</p> <p>【資料】MSC「海のエコーベル」<5年上P105></p> <p>「これからの食料生産とわたしたち」</p> <p>【資料】「食品ロス」の問題<5年上P117></p> <p>「SDGsについて考えてみよう」</p> <p>【写真】かんぽでかかれてしまっとうもろこし(目標2)<5年下巻末></p> <p>【写真】日本と主な国の食料自給率(目標2)<5年下巻末></p> <p>【写真】人工知能が組み込まれた介護ロボット(目標9)<5年下巻末></p> <p>【資料】インターネットのふきゅう率の変化(目標9)<5年下巻末></p> <p>【資料】津波災害に強いまちづくり(目標11)<5年下巻末></p> <p>【資料】ハザードマップ(目標11)<5年下巻末></p> <p>【写真】垂水市にある「かしま豊かな海づくり協会」の様子(目標14)<5年下巻末></p> <p>【資料】MSC「海のエコーベル」(目標14)<5年下巻末></p> <p>【写真】生態系保護地域を示すかん板(目標15)<5年下巻末></p> <p>【写真】間ばつ材でつくられた製品(目標15)<5年下巻末></p> <p>【本文】「ハートナーシップを充実させる。」(目標17)<5年下巻末></p> <p>「世界の未来と日本の役割」</p> <p>【資料】持続可能な開発目標(SDGs)<6年政治・国際編P96></p> <p>【写真】SDGsを定めた国連の会議<6年政治・国際編P96></p> <p>【写真】ユニセフによる学校への援助(パキスタン)<6年政治・国際編P97></p> <p>【写真】衛生について教える青年海外協力隊(マダガスカル)<6年政治・国際編P97></p> <p>【写真】イスラエル軍に投石をするパレスチナの人々<6年政治・国際編P97></p> <p>【写真】アフガニスタンの難民キャンプ<6年政治・国際編P97></p> <p>【資料】第二次世界大戦後の主な国際紛争<6年政治・国際編P97></p> <p>【説明】紛争<6年政治・国際編P97></p> <p>【写真】紛争地域の子ども(シリア)<6年政治・国際編P106></p> <p>【写真】ODAによって建設された小学校(中央アフリカ)<6年政治・国際編P106></p> <p>【写真】国連気候変動枠組条約を結んだ国々による会議(イギリス)<6年政治・国際編P106></p> <p>【写真】日本ユニセフ協会のサッカークロスカムによる活動(ハンガリー)<6年政治・国際編P106></p> <p>【資料】ひなさんのカード(目標2)<6年政治・国際編P107></p> <p>【資料】かなでさんのカード(目標6)<6年政治・国際編P107></p> <p>【資料】はるさんのカード(目標14)<6年政治・国際編P107></p>

発行者名	「教材名」【掲載方法】 記述の概要(学年以上/下 掲載ページ)
	<p>「SDGsとつなげよう」</p> <p>【資料】わたしたちのまちと市(目標11・15)＜3年P162＞</p> <p>【資料】はたらく人とわたしたちのくらし(目標12・14)＜3年P162＞</p> <p>【資料】地いきの安全を守る(目標3・16)＜3年P163＞</p> <p>【資料】わたしたちの市と歩み(目標11・13)＜3年P163＞</p> <p>「SDGsとつなげて考えよう」</p> <p>【資料】健康なくらしとまちづくり(目標3・6・7・11・13・14・15)＜4年P214＞</p> <p>【資料】自然災害にそなえるまちづくり(目標11・13)＜4年P215＞</p> <p>【資料】地域で受けつがれてきたもの(目標11・17)＜4年P215＞</p> <p>【資料】昔から今へと続くまちづくり(目標11・17)＜4年P215＞</p> <p>【資料】わたしたちの県のまちづくり(目標11・17)＜4年P215＞</p> <p>「SDGsとつなげて考えよう」</p> <p>【資料】水産業がさかんな地域(目標14)＜5年P103＞</p> <p>【資料】これからの食料生産(目標12)＜5年P119＞</p> <p>【資料】日本と工業生産の今と未来(目標9)＜5年P171＞</p> <p>【資料】森林とともに生きる(目標15)＜5年P235＞</p> <p>【資料】環境をもとに守る(目標15)＜5年P245＞</p> <p>【写真】お金を得るために、ごみを集める子どもたち(イエメン)＜5年P250＞</p> <p>【説明】貧困＜5年P250＞</p> <p>【説明】ジェンダー＜5年P250＞</p> <p>【説明】パートナーシップ＜5年P250＞</p> <p>「SDGsとつなげて考えよう」</p> <p>【本文】「/」アフリカの設備は、すべての人が行きたいところに自由に行くことができるようにとのえられていたね。」(目標10)＜6年P67＞</p> <p>【本文】「ゆいいつの被爆国で平和主義をかかげている日本は、平和の大切さを世界にうつたえる活動をしているよ。」(目標16)＜6年P67＞</p> <p>【本文】「住みなれたまちで暮らし続けられるように、介護予防を支援する取り組みも行われていたね。」(目標3)＜6年P67＞</p> <p>【本文】「市民の意見を取り入れて、災害に備えたまちづくりや積雪への対策が行われているよ。」(目標11)＜6年P67＞</p> <p>【資料】「持続可能な社会を歴史から考えよう」リサイクル都市江戸＜6年P167＞</p> <p>「持続可能な社会を歴史から考えよう」一記憶を未来へと受けつぐ」</p> <p>【写真】長崎原爆資料館で被爆の体験について語る若い世代の語り部＜6年P235＞</p> <p>【写真】四日市公害と環境未来館をおとすれたジュニアサミットの参加者(三重県)＜6年P235＞</p> <p>「世界の人々とともに生きていくために、大切なことを考えよう」</p> <p>【本文】「人や国の不平等をなくそう」という目標は、『だれもが生まれながらにもつ、自由に人間らしく生きる権利を尊重される』という日本国憲法の基本的な人権の尊重の考え方と関係していると思う。」(目標10)＜6年P287＞</p> <p>【本文】「戦争について学ぶことで、『平和と公正をすべての人に』という目標の大切さがわかったよ。核兵器をなくす取り組みなどが世界で広がっていくといいね。」(目標16)＜6年P287＞</p>
<p>教出</p>	

発行者名

- 【未来につなげる～わたしたちのSDGs～】
- 【資料】市に書かれたものや自然を未来に受けつぐために<3年P42～43>
- 【資料】食べられずに捨てられてしまふ食品をへらすために<3年P92～93>
- 【資料】まちをみんなが安全にしていけるために<3年P126～127>
- 【資料】たれも出かきやいままちづくり<3年P156～157>
- 「考えよう！ SDGs」
- 【資料】わたしたちの住んでいる市のおよす(目標17)<3年P25>
- 【資料】工場ではらくらく(目標2)<3年P55>
- 【資料】火事から人びとを守る(目標11)<3年105>
- 【資料】交通事故や事件から人びとを守る(目標3)<3年P119>
- 「未来につなげる～わたしたちのSDGs～」
- 【資料】石川県に昔から受けつがれてきた産業<4年P28～29>
- 【資料】多摩川の水を守るために<4年P78～79>
- 【資料】水害にそなえて自分たちができることを考えよう<4年P118～119>
- 【資料】伝統を守りつぎ、未来につなぐ<4年P168～169>
- 【資料】高千穂郷・権葉山の産業や自然を未来に残すために<4年P202～203>
- 「考えよう！ SDGs」
- 【資料】ごみの処理と活用(目標14)<4年P47>
- 【資料】川の水をくむ子ども(ワガンダ)(目標6)<4年P66>
- 【資料】自然災害から命を守る(目標11)<4年P86>
- 【資料】わたしたちのまちに伝わるもの(目標11)<4年P129>
- 【資料】自然を守る運動(目標15)<4年P158>
- 【資料】村を育てる教育につくす(目標11・4)<4年P163>
- 【資料】医いよにつくす(目標5)<4年P167>
- 【資料】土地の特色を生かした地いき(目標15)<4年P185>
- 「未来につなげる～わたしたちのSDGs～」
- 【資料】ハイオマヤ産業都市「エネルギーと資源が循環するまち」～佐賀市の取り組み～<5年P86～87>
- 【資料】限りある食料資源をたいせいに～横浜市の取り組み～<5年P134～135>
- 【資料】持続可能な都市「スマートシティ」～宇都宮市の取り組み～<5年P192～193>
- 【資料】2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)<5年P236～237>
- 「考えよう！ SDGs」
- 【資料】さまざまな土地のくらし(目標11・14・15)<5年P39>
- 【資料】さまざまな土地のくらし(目標11)<5年P47>
- 【資料】米作りのさかんな地域(目標12)<5年P91>
- 【資料】水産業がさかんな地域(目標2・14)<5年P99>
- 【資料】くたもの作りのさかんな和歌山県(目標12)<5年P115>
- 【資料】野菜作りのさかんな高知県(目標3)<5年P118>
- 【資料】これからの食料生産(目標8)<5年P131>
- 【資料】わたしたちのくらしを支える製鉄業(目標7)<5年P167>
- 【資料】運輸と日本の貿易(目標1・8)<5年P181>
- 【資料】これからの工業生産(目標5・8)<5年P186>
- 【資料】情報を生かして発展する産業(目標7・13)<5年P222>
- 【資料】森林とわたしたちのくらし(目標15)<5年P259>
- 【資料】森林とわたしたちのくらし(目標13・15)<5年P261>
- 「未来につなげる～わたしたちのSDGs～」
- 【資料】彦根市の子ども会議で政治体験～よりよい市をつくりだすために～<6年P58～59>
- 【資料】縄文時代の人々のくらしをわたしたちの生活に生かす<6年P104～106>
- 【資料】歴史と文化がおりなすまち 古都鎌倉<6年P124～125>
- 【資料】感染症とたたかい、人々の命を守った上杉雁山と後藤新平<6年P164～165>
- 【資料】日光の世界遺産を調べよう～伝統的な技術と保存活動～<6年P194～195>
- 【資料】安心して、くらし続けられるまちづくりに向けて<6年P230～231>
- 【資料】地球上の「だけれ」一人取り残さないことの実現に向けて～自分ができること～<6年P272～273>
- 「考えよう！ SDGs」
- 【資料】わが国の政治のはらき(目標5・10・17)<6年P9>
- 【資料】日本国憲法と政治のしくみ(目標16)<6年P27>
- 【資料】日本国憲法と政治のしくみ(目標3・8・11)<6年P35>
- 【資料】日本のあゆみ(目標11)<6年P63>
- 【写真】「国産」医師の医師として活動する岩川さん(南スーダン)<6年P233>
- 【写真】被災地への支援をする矢川さん(アメリカ)<6年P233>
- 【写真】被災地のある子どもたちにクラミングを教える小林さん(ケニア)<6年P233>
- 【写真】理学療法士として活動する青年海外協力隊員の酒井さん(東ティモール)<6年P233>

日文

学年	「教材名」 【掲載方法】 記述の概要(上/下 掲載ページ)
第3学年	<p>「はたらく人とわたしたちのくらし」 【写真】買い物の手つだいをする<P81> 【コラム】店長の佐藤さんの話「お手伝いがひつようなお客さんには、お店ではたらく人が買い物の手つだいをします。」<P81> 【写真】いどうはん売車<P85> 【本文】「店が少ない地いきに住む人や、買い物に出かけにくい人も、家の近くでひつようなものを買ってべんり。」<P85></p>
第4学年	<p>「住みよいくらしをつくる」 【資料】車いすに乗る人のイラスト<P32></p>
第5学年	<p>「わたしたちの生活と工業生産」 【本文】「高れい者や体の不自由な人の生活を支える自動車です。車いすのまま乗車できたり、足が不自由でも手だけで運転できたりする車などがつくられています。」<下P21> 【本文】「ある自動車会社では、高れい者や障がいのある人などをふくめたすべての人の移動の自由や交通事故の防止、環境問題など、新しいくらしの可能性を実証するまち(静岡県裾野市)をつくっています。」<下P21> 「これからの工業生産とわたしたち」 【写真】介護施設で働くロボット<下P46> 【本文】「体の不自由な人など、さまざまな人の生活を支えるものづくり」<下P49> 「わたしたちの生活と環境」 【本文】「1956年に、その病気が大きな社会問題になり、1995年と2010年の2回、多くの患者団体と政府が解決に合意しました。しかし、現在もまだ問題が残っています。水俣市では、このような悲しいできごとが二度と起こらないよううたえています。」<下P122></p>
第6学年	<p>「日本の歴史」 【資料】クラスで話し合うために出した問題の例「高齢者や障がいのある人たちの人権をめぐる問題」<歴史編P152> 「わたしたちの生活と政治」 【資料】まちの様子<政治・国際編P8> 【本文】「まちには、子ども、高齢者、障がいのある人、外国人など、いろいろな人がくらしています。」<政治・国際編P8> 【写真】駅などの公共施設やお店には、盲導犬といっしょに入ることができます。<政治国際編P9> 【本文】「障がいのある人が盲導犬といっしょに移動できることは、日本国憲法につながっているんだね。」<政治・国際編P9> 【写真】尼崎市内を運行するバス<政治・国際編P11> 【写真】まちにあるユニバーサルデザイン<政治・国際編P16> 【ことば】ユニバーサルデザイン<政治・国際編P16> 【写真】デパートのバリアフリートイレ<政治・国際編P21> 【資料】子育て支援の施設の建設に向けた市役所の働き<政治・国際編P39> 【資料】市民「車いすのイラスト」<政治・国際編P44></p>

学年	「教材名」 【掲載方法】 記述の概要(上/下 掲載ページ)
<p>第3学年</p>	<p>「ぼろろくんとわだしたちのくらし」 【写真】走り場や通路が広い。こんざつしているときでも、車いすやジョギングカートを動かしやすい。<P56> 【写真】車いすの出し入れ<P57> 【写真】しょうがいのある人のための駐車場<P57> 【写真】補助犬といっしょに店に入れることを表すマーク<P57> 「地いきの安全を守る」 【写真】点字ブロック<P122> 「わたしたちの市の歩み」 【資料】ゆうまさんの総カード<P153> 【本文】お年寄りやしょうがいのある人などにも、べんりなしぜつがふえるんじゃないかな。<P157> 【資料】ゆうまさんのノート「赤ちゃんやお年寄り、しょうがいのある人や外国の人などの他に、どんな人の生活も大切にしたいと思う。」<P157> 【資料】児童(つむぎ)<目次・P159、裏表紙></p>
<p>第4学年</p>	<p>【資料】児童(つむぎ)<4年 目次・P42・P68・P69・P86・P208・裏表紙> 「自然災害にそなえるまちづくり」 【コラム】地域のだれもがひなんするたためには<4年P103> 「未来をつくり出す工業生産」</p>
<p>第5学年</p>	<p>【写真】回転するシート<P138> 【説明】ユニバーサルデザイン<P138> 【写真】リフトつきの自動車<P138> 【資料】運転転や乗りおろししやすい機能「車いすやベビーカーを使う人も乗りおろししやすいように、車内やドアを広くする。足にしょうがいのある人でも運転できるように、手だけで運転できる装置を取り付ける。」<P138> 【写真】聴覚にしょうがいのある人も、他の人と同じように働いています。<P139> 「未来とつながる情報」 【写真】情報があつたつ仕事を学ぶ人たち<P198> 【写真】車いすで移動しやすい道を表示してくれる機能<P207> 【コラム】情報通信技術の可能性「環境にしょうがいがある人のために」<P207> 【コラム】情報通信技術の可能性「車いすを使っている人のために」<P207> 【資料】児童(つむぎ)<目次・裏表紙></p>
<p>第6学年</p>	<p>【資料】児童(つむぎ)<目次・P237・P237・P291・裏表紙> 「ともに生きる暮らしと政治」 【本文】オリンピック・パラリンピックはどちらも4年に一度、同じ年に開催されている世界的なスポーツの祭典です。2021(令和3)年には、東京でも夏季大会が開かれました。」<P8> 【写真】東京(2021年 日本)<P8・9> 【写真】ピョンチャン(2018年 韓国)<P8・9> 【写真】東京2020パラリンピック競技大会に出場した山崎悠麻選手<P10> 【コラム】山崎悠麻選手の語<P10> 【写真】隣場で働く山崎選手<P12> 【コラム】山崎選手の話<P12> 【写真】体育館のスロープ<P12> 【写真】自動車から車いすを降ろす山崎選手<P13> 【写真】点字ブロック<P13> 【コラム】山崎選手の話<P13> 【本文】「さまざまな人が利用する公共施設の設備を、たれもが不自由なく、安全に利用できるように整えることは、役所が行う大切な仕事の一つです。こうして役所の仕事は、「バリアフリー法」や「障害者差別解消法」という法律に従って進められてい</p>
<p>第6学年</p>	<p>す。」<P13> 【資料】障害者差別解消法の目的(一部の要約)<P13> 【説明】バリアフリー<P13> 【本文】「障害者差別解消法にあった、『基本的な権利の尊重はだれもが人間らしく生きる権利をもつ』という意味なんだ。」<P15> 【本文】「障害者差別解消法は、基本的な権利の尊重と関係があるみたいだね。」<P17> 【写真】不在者投票の制度を利用する人<P18> 【資料】障害者差別解消法<P21> 【資料】障害者差別解消法を審議した衆議院の委員会の発言の例<P25> 【資料】障害者差別解消法の成立<P25> 【資料】税金の集められ方・使われ方「高齢者や障がいのある人を支援する」<P31> 【資料】SDGsとつながって考えよう「バリアフリー」の設備は、すべての人が行きたいところに自由に行くことができるように整えられているのだったね」<P67> 「日本の歴史」 【本文】「1964(昭和39年)年、アジアで初めてのとなる東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。」<P226> 【資料】東京パラリンピック<P227> 【写真】東京パラリンピック(1964年)のポスター<P227></p>

学年	「教材名」 【掲載方法】 記述の概要(上/下 掲載ページ)
第3学年	<p>わたしたちのくらしとまちでほたちくらひと</p> <p>【資料】スーパーマーケットの中の絵に車いすの方 <P80></p> <p>【コラム】店長の犬さんの話<P86></p> <p>【写真】店でかりられる車いす<P86></p> <p>【写真】身体しようがい者用のちゅう車場<P87></p> <p>【資料】ひろとさんとたちがまとめたお客さんのねがいと店のくふうのかんけい「車いすで買い物ができるように通路を広くする。」(P90)</p> <p>「市のようにくらしのうづりかわり」</p> <p>【資料】これからの川越市(P154)</p> <p>【本文】「体の不自由な人など、たれもが住みやすい市にしたいな。」(P154)</p>
第4学年	<p>「健康なくらしを守る仕事」</p> <p>【資料】車いすのイラスト<P31></p>
第5学年	<p>「工業生産とわたしたちのくらし」</p> <p>【写真】手だけで運転できる自動車<P156></p> <p>【コラム】パワーアシストスーツの利用者の人の話<P188></p> <p>【写真】介護支援用のパワーアシストスーツ<P188></p> <p>「情報社会に生きるわたしたち」</p> <p>【資料】情報ネットワークのつながり<P235></p>
第6学年	<p>「わが国の政治のはたらき」</p> <p>【写真】演奏活動を仕事にするJOY倶楽部の青年たち<P9></p> <p>【写真】芸術活動を仕事にするJOY倶楽部の青年たち<P9></p> <p>【写真】ウインドシンセサイザーを演奏する犬城さん<P10></p> <p>【写真】絵画を制作する高田さん<P10></p> <p>【資料】ひろとさんのカード<P11></p> <p>【説明】JOY倶楽部<P11></p> <p>【コラム】人権啓発センターの人の話<P16></p> <p>【資料】日本国憲法と法律の関係<P17></p> <p>【本文】「障がい者の差別に関する法律の一つに、障害者差別解消法があります。」<P17></p> <p>【写真】たれもが使いやすい地下鉄の施設<P17></p> <p>【写真】障害者差別解消法の改正法案の成立<P21></p> <p>【写真】JOY倶楽部ミュージックアンサンブルの公演<P29></p> <p>【コラム】JOY倶楽部の理事さんの話<P29></p> <p>「日本のあゆみ」</p> <p>【写真】障がいのある人が働く職場<P226></p> <p>「世界のなかの日本とわたしたち」</p> <p>【写真】視覚障がいのある子どもたちにクラミングを教える小林さん<P233></p> <p>【写真】東京2020パラリンピック大会の車いすラグビー<P254></p> <p>【写真】東京2020パラリンピック大会でのボランテニアの活動のようす<P254></p> <p>【本文】「パラリンピックは、障がいのある人たちが参加するスポーツ大会で、現在では、オリンピックと同じ時期に同じ都市でおこなわれます。」<P254></p> <p>【本文】「オリンピック・パラリンピックは、スポーツを通して、いちどに多くの国や地域の人たちが交流できる場だね。」<P257></p>

「別紙2-9」 【オリンピック・パラリンピックの扱い 発行者 東書】 (小学校 社会)

「教材名」【掲載方法】 記述の概要(上/下 掲載ページ)	
学年	記載なし
第3学年	記載なし
第4学年	記載なし
第5学年	記載なし
第6学年	<p>「世界の中の日本」</p> <p>【本文】「スポーツでも外国と交流しているね。2021年の東京オリンピック・パラリンピックでは、多くの選手が日本に集まりました。」<政治・国際編P62></p> <p>【写真】東京オリンピックの開会式<政治・国際編P91></p> <p>【写真】東京パラリンピックの車いすテニスの試合<政治・国際編P91></p> <p>【写真】オリンピックでかけられる各国の国旗<政治・国際編P105></p> <p>「日本の歴史」</p> <p>【資料】戦後から現在までの主なできごと<歴史編P142></p> <p>【写真】1964年の東京オリンピック・パラリンピックが開かれたころの新宿<歴史編P143></p> <p>【本文】「1964年の東京オリンピック・パラリンピックが開かれたころの新宿のまちは、空き地がなく、かなり復興しているね。」<歴史編P143></p> <p>【写真】東海道新幹線の開通(1964年)と、オリンピックに向けてつくられる高速道路(1963年)<歴史編P148></p> <p>【写真】東京オリンピック開会式の様子<歴史編P148></p> <p>【資料】経済の成長とオリンピック<歴史編P148></p> <p>【本文】「1964(昭和39)年に、アジアで初となる東京オリンピックも、東京で開かれました。」<歴史編P148></p> <p>【説明】東京オリンピック・パラリンピック<歴史編P148></p> <p>【本文】「東京オリンピックは、戦後の日本がスポーツで世界にこうけんできる機会になったんだね。また、日本の復興を世界に伝えることができ、世界からも認められました。」<歴史編P149></p>

学年	「教材名」【掲載方法】 記述の概要(上/下 掲載ページ)
第3学年	<p>「わたしたちの市の歩み」 【コラム】駅ではたらく原さんの話<P146> 【本文】「1964年に、新幹線の新横浜駅ができて、東京オリンピックも開かれていくね。」<P154></p>
第4学年	記載なし
第5学年	記載なし
第6学年	<p>【本文】「オリンピック・パラリンピックは、どちらも4年に一度、同じ年に開催されている世界的なスポーツの祭典です。2021(令和3)年には、東京でも夏季大会が開かれました。」<P8></p> <p>【写真】東京(2021年 日本)<P8~9> 【写真】ピョンチャン(2018年 韓国)<P8~9> 【資料】オリンピック・パラリンピックをめぐることについての年表<P9> 【資料】延期されたオリンピック・パラリンピック<P9> 【写真】東京 2020 パラリンピック競技大会に出場した山崎悠麻選手<P10> 【コラム】山崎悠麻選手の話<P10> 【本文】「新型コロナウイルス感染症が世界的に流行する中、2021(令和3)年の東京で開催されたパラリンピックには、161の国と地域などから、それまでの大会で最多の4403人の選手が参加しました。」<P10> 【資料】オリンピック憲章に示された根本原則(一部の要約)<P11> 【本文】「パラリンピックという言葉には『もう一つのオリンピック』という意味があるみたいだよ。大変な状況の中でも、多くの選手が参加したんだ。」「オリンピックの原則などについて書かれた、『オリンピック憲章』がありますよ。」<P11> 【本文】「オリンピックも、スポーツを通して、平和な社会の推進を目指していたよね。」<P15> 【写真】冬季オリンピック札幌大会<P59> 【本文】「札幌市は、冬季オリンピック札幌大会の開催がきっかけの一つとなり、急速に進みました。」<P59> 【本文】「札幌市は、冬季オリンピックの開催に向けて、人の移動やものの輸送をしやすくするために、除雪の仕事をを行う仕組みを見直して、取り組みを強めました。」<P60> 【日本の歴史】 【資料】「1964年東京オリンピック・パラリンピックが開かれる」・1972年札幌オリンピック(冬季)が開かれる・1998年長野オリンピック(冬季)が開かれる・2021年東京オリンピック・パラリンピックが開かれる<P75> 【資料】戦争が終わったあとの日本の主なできごと<P221> 【写真】東京オリンピックの開会式<P226> 【本文】「1964(昭和39年)年、アジアで初めてとなる東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。このときのオリンピックには、世界中から、94の国と地域の選手団が参加しました。」「オリンピック(1964年)の聖火リレーのコース<P227> 【資料】東京オリンピック(1964年)の聖火リレーのコース<P227> 【写真】聖火台に向かう最終走者の青年<P227> 【写真】東京パラリンピック(1964年)のポスター<P227> 【コラム】おじいさんの話<P227> 【説明】東京パラリンピック<P227> 「産業の発展と国民生活の変化」 【本文】「東京オリンピックが開かれたころから、外国との貿易がさかんになって、日本は世界有数の工業国へと発展していききました。」<P228> 「世界の中の日本」 【写真】オリンピックでかかげられる国旗<P239></p>

「教材名」【掲載方法】 記述の概要(上/下 掲載ページ)	
学年	
第3学年	<p>「市のようすとくらしのうつりかわり」</p> <p>【資料】東京2020オリンピック・パラリンピックがいかいさいされる。<P150></p>
第4学年	<p>記載なし</p>
第5学年	<p>「国土の環境を守る」</p> <p>【資料】くらしと環境に関わる年表<P238・239></p> <p>【写真】無観客でおこなわれた「東京2020オリンピック」の開会式<P239></p> <p>【写真】オリンピック・パラリンピック<P287></p>
第6学年	<p>「日本のあゆみ」</p> <p>【写真】東海道新幹線の開通とオリンピックに向けてつくれる高速道路<P221></p> <p>【写真】オリンピック東京大会(1964年)<P222></p> <p>【写真】冬季オリンピック札幌大会(1972年)<P222></p> <p>【本文】「1964(昭和39)年に、世界の93の国と地域が参加したオリンピックと、22か国が参加したパラリンピックが東京で開催されました。」「その後も日本万国博覧会や冬季オリンピック札幌大会などを開き、日本は平和で民主的な国家として、世界の国々が友好を深めるために大きな役割をはたしました。」「<P222></p> <p>【本文】「2021(令和3)年には、東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。」「<P223></p> <p>「世界のなかの日本とわたしたち」</p> <p>【本文】「2021(令和3)年におこなわれた『東京2020オリンピック・パラリンピック』では、世界中の国と地域が参加しました。」「<P232></p> <p>【写真】東京2020オリンピック大会のスケートボード競技<P254></p> <p>【写真】東京2020パラリンピック大会の車いすラグビー<P254></p> <p>【写真】東京2020パラリンピック大会でのボランテニア活動のようす</p> <p>【本文】「オリンピックは夏季・冬季それぞれ4年に1度開催される、世界的なスポーツの祭典です。パラリンピックは、障がいのある人たちが参加するスポーツ大会で、現在では、オリンピックと同じ時期に同じ都市でおこなわれます。」「<P254></p> <p>【写真】オリンピックのシンボルマーク<P255></p> <p>【写真】東京2020オリンピック大会の表しよう式<P255></p> <p>【本文】「オリンピック・パラリンピックを通して、世界各国の選手やボランテニアの人々のあいだに交流が生まれたね。」「<P255></p> <p>【本文】「オリンピック・パラリンピックはスポーツを通して、いちだに多くの国や地域の人たちが交流できる場だね。」「<P257></p> <p>【資料】オリンピック東京大会が開かれる(1964)・冬季オリンピック札幌大会が開かれる(1972)・冬季オリンピック札幌大会が開かれる(1998)・東京2020オリンピック・パラリンピックが開かれる(2021)<巻末></p>

発行者名	
東書	<p>【本文】「くらしの中の基本的人権の尊重」<6年政治・国際編P16～17> 【資料】国民の権利<6年政治・国際編P17> 【本文】「わたしたちの願いと子ども家庭総合センター」<6年政治・国際編P36～37> 【説明】子育て支援<6年政治・国際編P37> 【写真】日本人女性初の国連事務次長となった中淵美さん<6年政治・国際編P98> 【本文】「新しい世の中の文化や生活」<6年歴史編P108～109> 【コラム】日本初的女子留学生 津田梅子<6年歴史編P109> 【本文】「生活や社会の変化」<6年歴史編P124～125> 【写真】交通の発展<6年歴史編P124> 【写真】女性運動<6年歴史編P125> 【本文】「民主主義による国を目指して」<6年歴史編P144～145> 【写真】初めて投票する女性<6年歴史編P144> 【写真】初めて誕生した女性国會議員<6年歴史編P144> 【資料】戦後改革について調べたこと<6年歴史編P145> 【本文】「これからの日本を考えよう」<6年歴史編P152> 【資料】クラスで話し合ったために出した問題の例<6年歴史編P152> 【資料】ひなさんがまとめた作品<6年歴史編P154> 【本文】「歴史の中で活やくした女性がいました。性別にかかわらず活やくできる世の中を、これからもつくりたいです。」<6年歴史編P157></p>
教出	<p>【本文】「すべての人が幸せに生きるため」<6年P20～21> 【資料】日本国憲法に定められている国民の権利と義務<6年P20> 【本文】「子どもは未来への希望」<6年P38～39> 【コラム】浜松市子ども育成条例の前文(一部の要約)<6年P38> 【本文】「社会の課題の解決とわたしたち」<6年P44～45> 【説明】育児・介護休業法<6年P45> 【本文】「人々の願いの今と昔」<6年P68～71> 【写真】投票の様子<6年P68> 【本文】「新政府による国づくりの始まり」<6年P176～177> 【写真】日本で最初の女子留学生<6年P176> 【本文】「人々の暮らしが変わった」<6年P180～181> 【資料】学校に通った子どもの割合の変化<6年P181> 【資料】小学校の授業の様子<6年P181> 【コラム】自民権運動と女性<6年P189> 【本文】「暮らしと社会の変化」<6年P198～199> 【コラム】「もとは、女性は大勝だった」<6年P199> 【本文】「もう戦争はしない」<6年P222～223> 【写真】戦後初めて行われた衆議院議員選挙で投票する人々<6年P222> 【資料】戦後のさまざまな改革<6年P223> 【本文】「よりよい社会をともにひらく」<6年P282～283> 【写真】ノーベル平和賞の授賞式でのマラニョスフザイさん<6年P284> 【コラム】女子にも教育を—マラニョスフザイさんのうたえ<6年P284></p>
日文	<p>【本文】「基本的人権と国民の権利・義務」<6年P14～15> 【資料】国民の基本的人権<6年P14> 【写真】男女平等について考える中学生向けの授業<6年P15> 【本文】「待機児童」について「問題」<6年P36～37> 【説明】子育て支援<6年P37> 【コラム】足立区子育てサロン<6年P43> 【本文】「江戸時代から新しい時代へ」<6年P166～167> 【資料】明治時代の学校のようす<6年P167> 【本文】「新しい政府による政治」<6年P172～173> 【本文】「文明開化とくらしの変化」<6年P176～177> 【資料】就学率の変化<6年P176> 【コラム】世界でかつやくした日本人 津田梅子<6年P189> 【本文】「よりよくなる権利を求めて」<6年P190～191> 【コラム】平塚らいてうの呼びかけ<6年P190> 【本文】「新しい国づくりがはじまる」<6年P216～217> 【資料】戦後の改革とそんえいきよう<6年P216> 【写真】女性議員の誕生<6年P216> 【本文】「これからの日本とわたしたち」<6年P226～227></p>

「別紙3」【構成上の工夫】（小学校 社会）

ア 冊子の構成	イ 学習過程	ウ 学習活動	エ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫	オ ユニバーサルデザインの視点	カ デジタルコンテンツの扱い
<p>一巻構成(3・4学年) 上下巻構成(5・6学年)</p>	<p>「学習の進め方」のコーナーがあり、問題解決的な学習をするためのポイントや、社会科において活用したい「見方・考え方」が示されている。 ・「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「いかに」の学習過程が、1単位時間ごとに明記されている。 ・学習過程とめあてが見開きページで明記されている。</p>	<p>「まなび方コーナー」があり、調べる段階においてインタビュアーの仕方や資料の見方など、調べ方の具体的な方法が示されている。 ・「CMIにまとめる」、「キャッチフレーズにまとめる」、「フローチャートにまとめる」、「関係図にまとめる」、「章原文をかく」、「表に整理する」、「図にまとめる」という学習活動がある。</p>	<p>既習の「学び方」については、「〇〇ページを見ましよう」と示し、既習内容を活用して問題解決ができるような構成になっている。 ・学習の進め方が写真やイラストとともに記載されている。また、社会科の見方・考え方の例示がされている。 ・学習のポイントとなる活動を示す、「学びのポイントを設定している。」 ・「ひろげる」では、学習したことをもとにさらに調べたいことや、主な事例との関わりなどが示されている。</p>	<p>ユニバーサルデザインフォントを採用している。 ・児童の色覚特性に適用するようにデザインしている。 ・児童の負担に配慮し、軽量の紙を使用している。 ・漢字にルビがふらつてある。</p>	<p>二次コードを読み込むことにより、児童用タブレット等で視聴できる動画資料がWeb上に用意されている。 ・二次コードを読み込むことで、教師や児童がダウンロードして活用できるワーグシート、都道府県かるた、大陸や海洋の名前等がWeb上に用意されている。</p>
<p>一巻構成</p>	<p>「社会科の学習の進め方」では、「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「つなげる」と、進め方の順番が示されている。 ・「つなげる」では、「歴史を学ぶ意味を考え、未来につなげよう」等を示している。</p>	<p>各単元のまとめる場面のページに、さまざまなまとめ方を例示している。 ・各単元の調べる場面のページに、調べ方を例示している。 ・各単元において、調べ方やまとめ方などの学び方を例示している。</p>	<p>「社会科の学習を広げる」のページでは、「インターネットでけんさくする」、「写真や動画に記録する」などタブレットの利用の仕方が記載されている。 ・「学びのてびき」として、具体的な活動例が示されている。 ・「社会科で使う見方・考え方」では、「時期や変化」、「場所や広がり」、「比べる」、「くふうや関わり」、「関連づける」、「総合する」などの観点が示されている。</p>	<p>見やすさ、読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用している。 ・色覚の個人差を問わず、より多くのの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮している。 ・漢字にルビがふらつてある。</p>	<p>二次コードを読み込むことで、教師や児童がダウンロードして活用できるワーグシート、動画、読み物、クイズ等が用意されている。 ・「まなびリンク」では、二次元コードのマークを示している。</p>
<p>一巻構成 付録(SDGSシール)</p>	<p>「社会科の学習の進め方」では、「問題発見」、「問題追究」、「問題解決」、「役だてる」と、学習の進め方が示されている。 ・単元の最後に「未来につなげる〜わたしたちのSDGs〜」が記載されている。 ・「さらに考えたい問題」の提示がある。</p>	<p>「インターネットを利用して調べる」、「話し合う」など、具体的な学習活動の例が示されている。 ・「学び方・調べ方コーナー」では、道具の使い方や、地図の読み取り方、学習を進める際のポイント等が記載されている。</p>	<p>「学び方・調べ方コーナー」では、「調べ方」や「読み取り方」、「表読の仕方」、「話し合い方」等、学習の進め方が示されている。 ・「見方・考え方」コーナーでは、考えを深めていくための「時間」、「空間」、「関係」のキーワードを提示している。 ・「問題をほりさげ、よりよい未来をつくる力を身につけよう」等のマークを示している。</p>	<p>カラーユニバーサルデザインに配慮している。 ・見やすく読みましがえにくいユニバーサルフォントを採用している。 ・漢字にルビがふらつてある。</p>	<p>「単元の最初」や「学び方・調べ方コーナー」、「見方・考え方」が載っているページに、二次元コードがあり、学習を進める際の資料等がある。 ・写真や動画、ワーグシート、関連しているWebサイトへのリンクなどにつなげる。</p>